



「ロングライフ住宅の実現」で、  
低炭素社会へ。  
私たちは、Fun to Shareに賛同しています。

AsahiKASEI

環境・社会報告書 2015

旭化成ホームズ株式会社

旭化成ホームズ 環境・社会報告書 2015



旭化成ホームズ株式会社

東京都新宿区西新宿1-24-1  
エステック情報ビル 〒160-8345

お問い合わせ先/  
旭化成ホームズ株式会社 コンプライアンス・RC推進本部  
TEL : 03-3344-7104  
<http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/>

2015.07

旭化成ホームズ株式会社



# 昨日まで世界になかったものを。

旭化成は世界に存在するさまざまな問題を見つめ、  
それらの問題を解決することで、世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献します。

私たち旭化成ホームズは、環境や社会が変化する中、  
さまざまな取り組みを通じて培ってきた技術とノウハウを活かし、  
これからの社会ニーズである「健康で快適な生活」  
「環境との共生」という視点から新しい価値の創出に注力。  
科学と英知で旭化成グループとしてのシナジー効果を生み、  
都市に長く住まう皆様へ、

## 住まいを通じて “安心して豊かな暮らし” を実現します。

### ■ 編集方針

本報告書は旭化成ホームズ株式会社及び関連会社の環境活動と一部の社会活動についてステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的としています。

報告テーマの選定にあたっては、「当社が設定している環境・社会上の重要な課題」を前提としています。

### ■ 参考とするガイドライン等

旭化成株式会社「旭化成レポート2015」

環境省「環境報告ガイドライン2012」

GRIガイドライン第4版

### ■ 対象期間

2014年度(2014年4月～2015年3月)

なお定性的な情報に関しては、2015年4月～6月の情報についても一部掲載しています。

### ■ 想定している読者対象

お客様・お取引先・地域社会・行政・社員・NGO・NPOなどステークホルダーの皆様

### ■ 対象報告範囲

旭化成ホームズグループ全体及び主要な材料調達先(旭化成建材)について報告しています。グループの詳細については8ページをご覧ください。

### ■ WEBサイトについて

より詳細な報告や継続的な環境・社会活動についてはWEBサイトに記載しています。併せてご覧ください。

[http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/environment\\_index.html](http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/environment_index.html)

### お問い合わせ先

旭化成ホームズ株式会社 コンプライアンス・RC 推進本部

TEL 03-3344-7104 FAX 03-3344-7139

## contents

TOP Message .....	4
旭化成ホームズグループの事業と 環境・社会への貢献 .....	6
旭化成ホームズグループの 環境理念と環境方針 .....	7
旭化成ホームズグループ概要 .....	8
<b>特集 都市に長く住まう。</b>	
40年を迎えたヘーベルハウスの 二世帯住宅 .....	10
賃貸住宅に新しい価値を生み出す、 付加価値型賃貸ロングライフコミュニティ 賃貸住宅 .....	12
長く住み継ぐ、しあわせ 旭化成のリフォーム .....	14
都市の社会課題に取り組む マンション建替え .....	15
<b>環境・社会活動に関するマネジメント</b>	
環境・社会活動に関するマネジメント .....	16
<b>環境に関する取り組み</b>	
環境目標と実績 .....	18
旭化成ホームズグループと 環境のかかわり .....	20
低炭素社会へ向けて .....	22
循環型社会へ向けて .....	26
自然共生社会へ向けて .....	27
社会との価値共創へ向けて .....	28
<b>社会に関する取り組み</b>	
お客様のために .....	30
より良い品質のために .....	32
労働安全衛生の取り組み .....	34
お取引先とのかかわり .....	35
地域・社会のために .....	36
社員とともに .....	38
<b>第三者意見報告書</b> .....	41





## 都市の住まい・暮らしづくりを通して、 未来世代へむけた持続可能な社会づくりに貢献します



代表取締役社長 池田 英輔

### 創業以来一貫して、都市で長く安心して 暮らせる住宅・住まい方を提案

旭化成ホームズは1972年の創業以来、敷地の制約が厳しい都市において安心して豊かに暮らすことができる、丈夫で長持ちする住まいづくりを追求してきました。抜群の耐火性を持つALCコンクリート「ヘーベル」を用いた建物により防災性を高め、敷地対応力を飛躍的に向上させた商品「CUBIC」を上市することで、限られた敷地を最大限に有効活用してきました。また、独自に開発したシミュレーション技術を駆使して密集住宅地における日当たり・風通しを実現するなど、都市ならではの要望にお応えする住宅を提供し続けてきました。

そのような取り組みの中で、都市における新たな住まい方ニーズを先取りし、「二世帯住宅」や「3階建住宅」などの商品を世に先駆けて提案しました。それとともに、住まい方そのものを研究する「くらしノベーション研究所」などの研究機関を設け、二世帯住宅、共働き家族、シニアライフなど家族の在り方や変化に対する積極的な提案を続けてきました。

### 「ロングライフ住宅」で暮らしを豊かにし、 環境にも貢献

創業以来大切にしてきた「丈夫で長持ちする住まい」という考え方を、1998年に「建物の長期耐久性」、「間取りの可変性」、「アフターサポートの充実」を揃えた「ロングライフ住宅の実現」へと昇華させ、生涯安心・満足できる住まいづくりを追求してきました。この考え方は、住生活基本法や長期優良住宅認定制度に象徴される「良質な住宅に長く住み継ぎたい」という社会意識の変化を先取りするものであり、現在も変わらぬ当社の事業基盤と言えます。昨今、住宅のネット・ゼロ・エネルギー化推進に代表される低炭素社会に向けた取り組みや、環境配慮への社会的要請が高まっています。当社はこれまでもロングライフ住宅という考え方に基づき建物を長期耐用化し、建設から解体までのライフサイクルを長くすることで、建設廃材やCO<sub>2</sub>の削減を促す一方で、日照・通風シミュレーションの活用により自然の恵みを活かす住まい方を提案してきました。今後は更に、太陽光発電などの創エネ設備や断熱性能といった省エネ技術なども含め、あらゆる面で環境に配慮した住まいづくりをより一層推進し、住まいを提供する企業として環境に対して担うべき役割を積極的に果たしていく所存です。

### 強みを活かした事業展開で 「変化する都市の課題」解決に貢献

一方、戸建住宅以外にも都市の住まいにおける様々な課題が注目されています。旧耐震基準当時に建てられたマンションは、都市部を中心に全国で100万戸以上も存在すると言われています。それらのマンションでは、所有者各々の事情が違ふことから意思統一を図ることが非常に難しく、その多くは大規模修繕も建替えもできないなど社会的な問題となりつつあります。当社では、戸建住宅事業において一組一組のお客様と向き合ってきた経験から得られた問題解決・合意形成力を活かしたマンション事業を展開しており、マンション建替えにおいてはトップクラスの実績を積み上げております。今後もこの社会的課題の解決に貢献できるよう事業を推進していきます。

また、核家族化や少子高齢化の進行に伴い、都市に住む家族や高齢者、単身者が孤立しつつあることも社会問題化しています。当

社はこの問題に対し、子育てやペット飼育など同じテーマに関心を持つ方が集まって住むことで生まれる集合賃貸住宅におけるコミュニティづくりを提案しました。入居者の皆様が互いの存在を拠り所として心豊かに暮らす事で長く満足いただき、しいては賃貸住宅オーナーの長期安心経営につながる独自の賃貸住宅事業を展開しています。

こうした提案は、都市のお客様一人ひとりの暮らしを見つめ続けることで得られた当社の強みから生まれたものであり、これからの住まいを真に豊かなものにするために当社が果たしていくべき大切な役割だと考えています。

### 旭化成グループの一員として “いのち”と“くらし”に貢献

旭化成グループは、「健康で快適な生活」「環境との共生」の実現を通して、社会に新たな価値を提供していくことをグループビジョンとして定めております。

このビジョンを実現する活動の一つとして、私たち旭化成ホームズでは、住宅総合技術研究所内に建設した実証棟<sup>【\*】</sup>HH2015<sup>】</sup>の第3期リニューアル工事を2015年3月に完了しました。そこで高齢者や医療を必要とする方々のより安心で豊かな暮らしを実現するために、「シニア関連事業」と「医療関連事業」の大きく二つのテーマに絞った研究を開始しました。また、田子の浦に面した同研究所内に設けた、地元本来の植生を活かした自然再生を目指すビオトープ「あさひ・いのちの森」も活動開始から8年を経ており、そこで得た知見を事業にも活かすことで社会に還元できるように、研究を続けていきます。

私たち旭化成ホームズは、「一人でも多くのお客様に一日でも早く、快適な生活をお届けする」を合言葉に、強みを創り、強みを活かし、都市における住まい・暮らしづくりを通して環境や社会に貢献することを目指して、社員一丸となって一層の努力を重ねてまいります。

\* 「HH2015」は旭化成グループの新中期経営計画「For Tomorrow 2015」の一環として、グループ横断でシナジー効果を発揮しながら将来の新事業を生み出す「ゆりかご」として2011年に竣工した実証棟です



# 旭化成ホームズグループの事業と環境・社会への貢献

旭化成グループ理念・ビジョン  
旭化成ホームズグループビジョン



**グループ理念** 私たち旭化成グループは、世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献します。

**グループビジョン** 「健康で快適な生活」と「環境との共生」の実現を通して、社会に新たな価値を提供していきます。

**旭化成ホームズグループビジョン** 一人でも多くのお客様に、一日でも早く、快適な生活をお届けする

旭化成グループでは、その理念とビジョンの実現に向け、グローバルリーディング事業の展開と共に「新しい社会価値の創出」を目指し、「環境・エネルギー」「住・暮らし」「ヘルスケア」の三つの領域に重点的に取り組んでいます。

旭化成ホームズグループは、これらに密接にかかわる「都市の住まい」の提供を通して、少子高齢化、家族構成の多様化、安全・安心や環境への配慮、さらには良質な住宅ストックの形成などの社会的課題やニーズに応え、安心で快適な生活の実現にむけて事業活動を行っています。

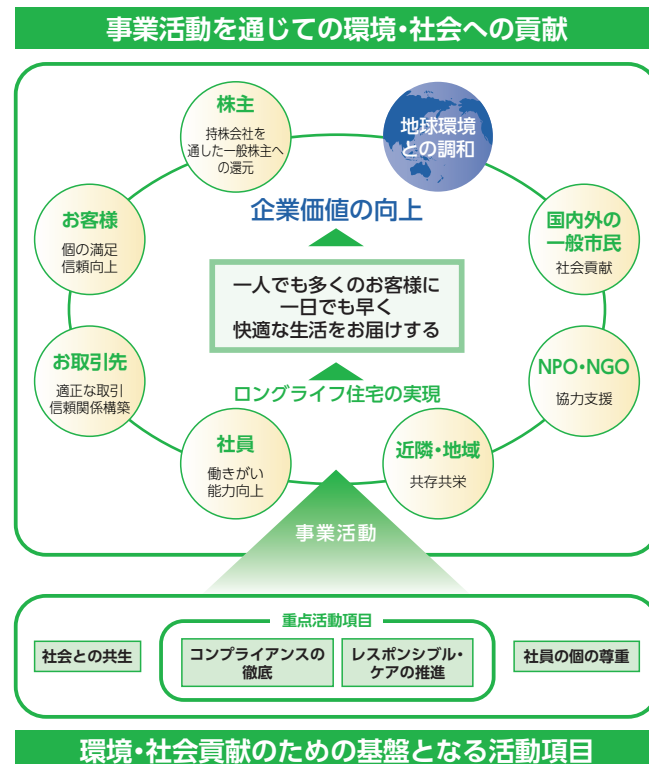
## ステークホルダーとのかかわりと環境・社会への貢献に関する考え方

当社グループは、住まいの提供や住まい方の提案を中心とした事業を通して、少子高齢化や家族構成・住まい方の多様化、エネルギー問題など、様々な社会的課題に応じていく、という考え方のもとに事業活動を展開しています。

そして、誠実な事業活動の推進そのものが環境・社会への貢献であり、ステークホルダーへの責任であると考えています。

その実現のために、4つの活動項目「コンプライアンスの徹底」「レスポンシブル・ケア(RC) [P.17参照]の推進」「社会との共生」「社員の個の尊重」を基盤にして事業活動を行っています。

とりわけ「コンプライアンスの徹底」と「レスポンシブル・ケアの推進」については、従来の各組織の取り組みを横断的に総括し、コンプライアンスの徹底、安全推進の風土づくりの定着・充実を図るために専任の組織を設置し、積極的な取り組みを行っています。



# 旭化成ホームズグループの環境理念と環境方針

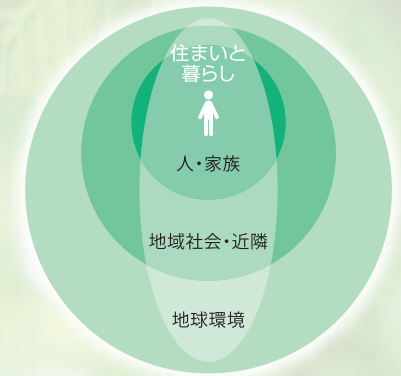
## 旭化成ホームズグループ環境理念

私たちは「人・家族」「地域社会・近隣」「地球環境」を大切にす住まいと暮らしの提供を通じて持続可能な社会を目指します。

旭化成ホームズグループが提供する「住まい・暮らし」は、住居そのものが備える性能・機能だけでなく、そこに住む人の快適さを考えた暮らしへの提案が大きな特徴です。

私たちは「人・家族」が「地域社会・近隣」との関係を大切にしながら、「地球環境」との共生を保つことで快適な生活を実現できると考えています。

私たちは、地球環境から与えられる恵みを最大限に活用し、快適な暮らしを実現すると共に、その恵みを守っていくことを目指した事業活動を推進していきます。



## 旭化成ホームズグループ環境方針

### ロングライフ住宅から未来世代へ貢献します

#### 1. サステナブルな都市の住まいの実現

私たちは、すべての住まいの省エネルギー性能を高め、より環境に貢献する住まいの提供に努めます。また、企業活動による環境負荷を削減することによって環境にやさしい企業を目指します。

#### 2. 環境を活かした快適な都市の暮らしの提供

私たちは、環境や自然を住まいや暮らしに取り入れることや、家族の暮らし方の新しい提案を行うことで、快適な暮らしの実現を目指します。

#### 3. 環境・社会との調和

私たちは、地球環境を守るための活動を積極的に行うと共に、社内及び社会に対して環境保護の重要性を啓発し、環境保全活動の輪を広げます。

### 旭化成ホームズ環境目標・指標

	具体的な目標・指標
1. 低炭素社会に向けて	1-1. 環境配慮住宅によるCO <sub>2</sub> 削減貢献と事業活動CO <sub>2</sub> 削減： [LCA・CO <sub>2</sub> 削減貢献度]2020年度「12.0」*1 1-2. アフター分野によるCO <sub>2</sub> 削減貢献：既存住宅の環境負荷低減と長寿命化
2. 循環型社会に向けて	2-1. 産業廃棄物の削減：「新築廃棄物発生量」2020年度「1.60t/棟」 2-2. 省資源の推進：事業活動における水・紙使用量の削減
3. 自然共生社会に向けて	3-1. 生物多様性に配慮した住まいづくりの推進 3-2. 木材グリーン調達継続実施

\*1 [LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度]の詳細は22ページをご覧ください。



# 旭化成ホームズグループ概要

旭化成ホームズは、旭化成グループの住宅事業会社として1972年に設立されて以来、長く住み継がれる「ロングライフ住宅の実現」という理念のもと、都市部を中心に「ヘーベルハウス」を供給しています。また、この理念実現のために不可欠な住まいの資産価値向上、美しい街づくり、豊かな住生活の支援という視点から多彩な関連事業を展開しています。

## 事業紹介

### 専門領域を連携し、暮らしの多様なニーズに応えます

#### 新築請負事業

##### 旭化成ホームズ(株)

「ロングライフ住宅」の実現により、安心して快適な暮らしを提供します。

- 戸建住宅「ヘーベルハウス」
- 集合住宅「ヘーベルメゾン」



ヘーベルハウス[CUBIC]



ヘーベルメゾン[PLANEX-3]

- グループ関連会社
- 旭化成設計(株)
- 旭化成住工(株)
- 旭化成住宅建設(株)
- 旭化成ライフライン(株)
- 旭化成集合住宅建設(株)
- 旭化成モーゲージ(株)
- 旭化成ホームズ少額短期保険(株)

#### リフォーム事業

##### 旭化成リフォーム(株)

ロングライフ住宅の価値を高め続けるサービスを提供します。

- 60年メンテナンスプログラムの実行
- ライフスタイルの変化に合わせた暮らしの提案



30年の耐久性を実現する屋上防水工事



改装商品「おとな3人リビング」



一般住宅用防水+太陽光商品「賢者の防水」

#### 不動産関連事業

##### 旭化成不動産レジデンス(株)

都市の住まいと資産の問題を、マーケットインで解決します。

- マンション開発「アトラス」
- ストック流通「ストックヘーベルハウス」
- 賃貸ネットワーク「ヘーベルROOMS」



アトラス調布(マンション建替え)



中古住宅流通「ストックヘーベルハウス」



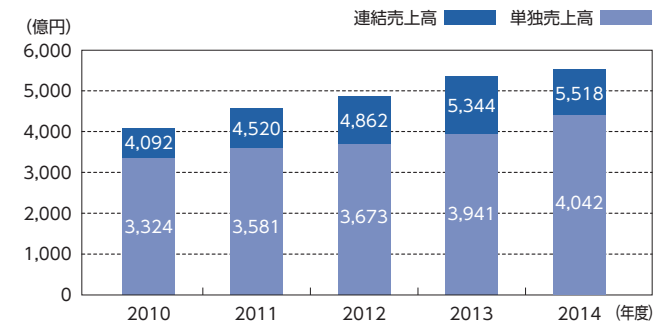
賃貸ネットワークブランド「ヘーベルROOMS」

- グループ関連会社
- 旭化成不動産コミュニティ(株)
- 旭化成賃貸サポート(株)

## 会社概要

社名	旭化成ホームズ株式会社
所在地	〒160-8345 東京都新宿区西新宿1-24-1
設立	昭和47年(1972年)11月
資本金	32.5億円
売上高	5,518億円(平成27年3月期連結)
従業員数	5,970人(連結)

## 旭化成ホームズグループ売上高



## 主な販売地域

東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀、和歌山、岡山、広島、山口、福岡、佐賀  
(一部販売していない地域があります)

## 研究開発

旭化成ホームズは、住ソフト・ハードの両面からより良い住まい・暮らし方を研究しています。

### 旭化成ホームズ(株)

机上の空論でなく、実邸調査を通じた現場主義から生まれる住ソフトで新しい暮らしをデザイン

#### くらしノベーション研究所

- ロングライフ住宅研究所
- 二世帯住宅研究所
- 共働き家族研究所
- シニアライフ研究所

旭化成グループが持つ、世界トップレベルの技術開発を背景にロングライフ住宅を実現  
住宅総合技術研究所

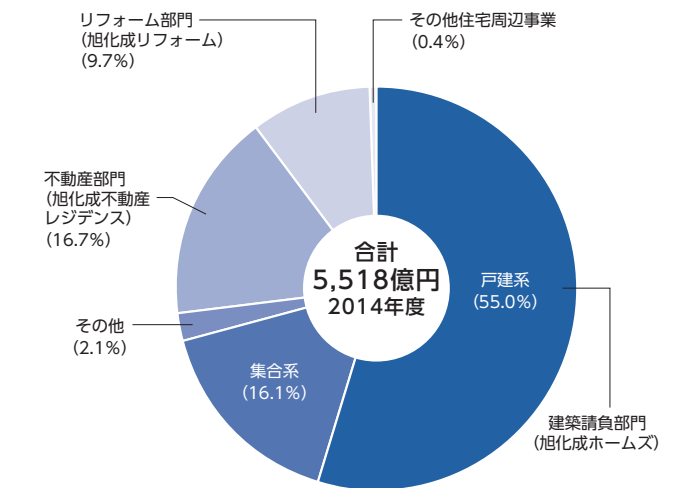
### 旭化成不動産レジデンス(株)

業界トップクラスのマンション建替え実績を持つ専門集団  
マンション建替え研究所

## 組織

事業所	営業本部……9、支店……83
主な工場	旭化成住工株式会社 滋賀工場、厚木製造部 旭化成建材株式会社 境工場、穂積工場、岩国工場 (旭化成ホームズに関連する事業について報告)

## 旭化成ホームズグループ売上内訳



くらしノベーションフォーラム



住宅総合技術研究所



# 40年を迎えたヘーベルハウスの二世帯住宅

ヘーベルハウスの二世帯住宅の歴史は、都市の住まいにおけるさまざまな問題をお客さまとともに考えてきた歴史です。

ヘーベルハウスの二世帯住宅は、創業から3年後の1975年に誕生しました。その背景には、核家族化での子育ての不安や高齢化社会への突入、さらに子世帯の住宅取得を困難にした地価高騰がありました。

親の土地に子世帯も一緒に住めないか？  
しかし二世帯同居することで昔ながらの暗く重苦しい嫁姑関係の家族制度への逆戻りになるのでは、到底受け入れてもらえません。それまでの親子一体とは異なる新しい親子同居を可能にする住まいを考え抜いてたどり着いたのが、「同居」なのに「分かれて暮らす」という、それまでになかった新しい暮らしを提案した二世帯住宅です。

それ以来、「同じ住宅で分かれて住むことの価値」と「協力することの価値」を高めていくために、訪問調査をベースとした「生活現場主義」のもと、お客さまから同居の成功談やアドバイスを直接お伺いして、それを新しい提案に反映してきました。

こういった調査・研究から生まれたのが、2012年発表の進化系二世帯住宅である2.5世帯の提案などです。

わたしたちは、日本の住宅問題の本質に迫った提案をこれからも行っていきます。

## 旭化成ホームズの二世帯住宅の主な商品と研究開発成果

社会の流れ

- 1975年  
二世帯住宅発表  
「二世帯シリーズ」発売  
外階段を設けた完全分離二世帯住宅の提案。
- 1980年  
二世帯住宅研究所設立
- 1987年  
「DUO」(オモテ融合・家事分離)発売  
「DUET」(オモテ分離・家事融合)発売  
息子夫婦同居と娘夫婦同居で異なるコンセプトを提案。
- 1988年  
3階二世帯住宅の生活実態調査  
「FREX 3D」発売 3階建てのメリットに着目。

核家族社会

- 1998年  
「Paren II」発売  
ホームエレベーターで親世帯が日当たりのよい上階に住むことの提案。
- 2005年  
「ロングライフ二世帯住宅」発売  
経年による家族と暮らし方の変化に対応し、両世帯間で仕切り位置を変えていく提案。
- 2009年  
くらしノベーション研究所設立
- 2010年  
「i\_co il」発売  
共働き世帯のために、孫のスペースを親世帯に近づけることを提案。

少子高齢化社会

- 2012年  
「2.5世帯住宅」発売  
単身の兄弟姉妹も共に暮らす「集居」の提案。
- 2013年  
「都市の実家」発売  
実家が持っている価値を上手に活かした二世帯住宅の提案。

家族再結集

# 都市に長く住まう。

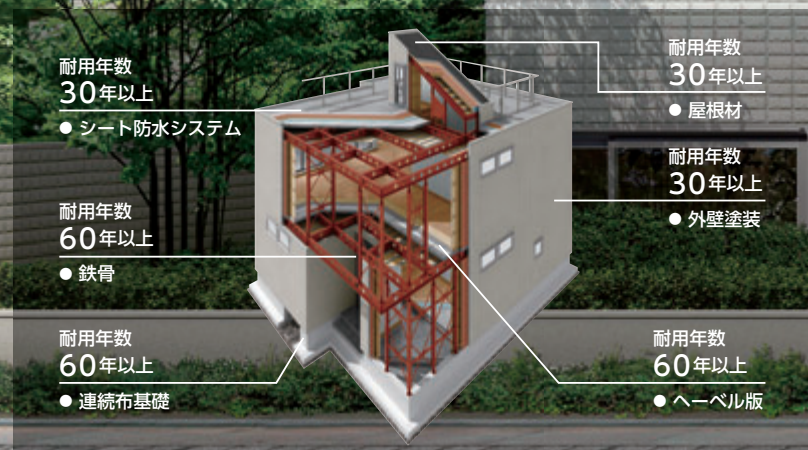
特集

日本の都市は、各種の都市機能が高度に集約されていることから、通勤や通学、通院、ショッピングなど、生活の利便性がきわめて高い水準にある一方、そこで快適に暮らすためには、敷地制約の厳しさの克服、住宅密集地でのプライバシー確保、災害発生時の減災、周辺環境への配慮など、さまざまな課題をクリアしなくてはなりません。

わたしたち旭化成ホームズは、1972年の創業以来43年間にわたり、都市に住む人々にとっての安全で快適な住まいのあり方、そしてそこに長く住まうためのあり方を追求し続けてきました。わたしたちの事業は戸建住宅にとどまらず、賃貸、リフォーム、不動産など多岐におよび、皆さまの暮らしを豊かにするお手伝いを続けています。この特集では、旭化成ホームズとそのグループ会社の、過去、現在、未来にわたる都市での社会課題とそれを解決するわたしたちの姿勢と事業活動をご紹介します。

## すべての基本は60年以上の耐久性を備えた基本構造躯体

住まいの問題を考える旭化成ホームズの活動の基本には、安全と快適を支えるヘーベルハウスの頑強な躯体構造があります。孫の代まで安心して住み継いでいける基本性能があるからこそ、生涯にわたる人と家との関わりや住まい方を考え、新たな提案へとつなげることができるのです。



## 都市における

### 住宅地の問題

- ・変形・コンパクトな敷地
- ・日照・通風の確保
- ・災害時の延焼危険性
- ・プライバシー確保

## 旭化成ホームズの取り組み



## 賃貸住宅に新しい価値を生み出す、付加価値型賃貸ロングライフ

## 出す、コミュニティ賃貸住宅

都市における

### 賃貸住宅の問題

- ・人口減少による空室リスク
- ・入居者ニーズの多様化
- ・入居者の孤立化

人が集まることで生まれる価値。新たな視点から生まれた都市の賃貸住宅です。

賃貸経営をめぐる環境は、供給過多や賃料の値下げなど厳しさを増しています。一方で、ライフスタイルの多様化により入居者の要望や不安もさまざまです。

わたしたちは、そういった社会と人の変化を的確に捉えてニーズを拾い上げ、新しい切り口とアイデアで付加価値を生み出すソフトの力が、20年後、30年後にも選ばれる賃貸住宅であり続けるための重要なファクターであると考えています。

このような環境の中でわたしたちは「人が集まることで生まれる価値」に着目しました。生活する上で同じような課題を抱えている一人ひとりが、時にゆるやかに、時に密接につながる場を住宅のカたちで提供することで、そこに共感する方に入居していただくという発想です。入居者に愛着を持っていただくことでオーナー様にも利益をもたらす、住まい手と貸し手の双方の利益に貢献する新しい住まいの価値です。

入居者のニーズに応える住まいの提供により、安心・安定的な賃貸住宅の運営に貢献します。

入居者に長く喜んで住んでいただき、オーナー様が安心して経営を続けられる理想的な長期安定経営のカギは、入居者ニーズとオーナーニーズがマッチするところにあります。それを実現するためには、第一に「選ばれる住まい」を提供することであり、その住まいは「時代の変化に耐える魅力のあるもの」である必要があります。今の社会に求められるニーズとは何か？ それに対するわたしたちの答えが、4つのコミュニティ賃貸住宅です。

- ・子育て家族に共感を提供する、母力(BORIKI)
- ・单身女性に安心・安全を提供する、New Safole
- ・ペットとの気兼ねのない暮らしを提供する、+わん+にゃん
- ・元気なシニアに安心・快適を提供する、ヘーベルVillage

それぞれの住宅には、同じ価値観を持つ人々



New Safole 外観

が共に暮らすことで生まれる連帯感・安心感があります。都市の集合住宅から消えてしまった「つながり」を、コミュニティ賃貸住宅は再生します。

そのため、入居者募集においては入居における共通価値に同意していただいています。+わん+にゃんでは審査・飼育規定、母力では住民憲章(子育てクレド)、New Safoleではマナー同意書、これらはそれぞれの住宅で共有し、守るべき考え方が書かれたものです。それは、共に暮らす入居者のニーズとオーナー様の安心につながっています。



母力で遊ぶ子供たちとそれを見守るお母さんたち

長期安定を実現するため、さまざまな仕組みでオーナー様をサポートします。

賃貸住宅の躯体であるヘーベルメゾン、60年以上メンテナンスフリーの頑強な建物構造。長期間にわたって入居者の安全とオーナー様の財産を守るハードの上に、長期安定経営を支える仕組みをご用意しています。

わたしたちはこれからも、オーナー様、入居者、さらに地域社会に対しても価値ある商品を提供していきます。

旭化成ホームズのコミュニティ賃貸 コミュニティ賃貸住宅が、社会や地域の問題解決の一助となっています。

### ○子育て世代の不安や不満を解消するため、「子育て世代が安心して暮らせる場」を提供



「子育ての不安や悩み、楽しさや喜びを共感しあう」ことを目指した賃貸住宅。実際に子育て経験を持つ女性の皆さんの声を聞きながら開発を進め、コミュニティが自然に育まれ、入居者家族や地域が助け合って子育てができるサポート体制を整えました。「いままでにないくらい毎日が楽しい」と、子育て家族からご好評をいただいています。



住民憲章(子育てクレド)

### 入居者の声

前は都心マンションの9階、駅近で便利でしたけど近くに親しい人や子育て世帯もなくて、子供が生まれてからは心細かったです。

私は、自分の子供の頃のような、家族や近所の人たちに囲まれた環境で子育てをしたいと思っていました。だから「子育て家族のコミュニティをつくる」という旭化成ホームズさんのコンセプトを知ったとき、私の望んでいたものがここにあった！と嬉しくなりました。

正直、引っ越し費用を貯めて家を買うという選択肢もありました。でも住んでみたらマイホーム以上の価値があると感じています。

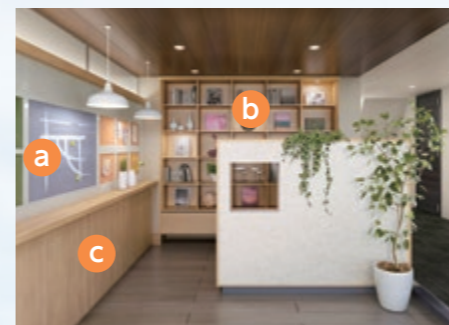
(1歳男児の母)



### ○「单身女性が都会でも安心して暮らせる住まい」を提供

## HEBEL MAISON New Safole

单身女性が安心して暮らせる住まいを追求し、「安心の見える化」に取り組む賃貸住宅。立地の選定や入居者募集、防犯設備、プランニングなど、女性を守るための配慮を徹底する一方で、帰宅時にほっとできる温もり、ほかの入居者の雰囲気を感じられるなどのゆるやかなコミュニティづくりも心がけています。



a 情報掲示板 b シェア本棚 c シェア用品

帰宅したときにほっとする、心地よい距離感のあるコミュニケーションエントランス「おかえりラウンジ」

### ○入居者全員がペットと暮らせる場

## +わん+にゃん

単なるペット可賃貸住宅とは一線を画す、入居者が快適に、豊かに日々を楽しめるペット共生型賃貸住宅です。



### ○ご高齢者の暮らしを総括的に支える

## シニア向け安心賃貸住宅 HEBEL Village

ヘーベルハウスならではの品質で安心安全な住まいを追求した、元気なシニアを応援する賃貸住宅です。





# 長く住み継ぐ、しあわせ 旭化成のリフォーム

旭化成リフォームは、独自の素材と構造を持つヘーベルハウスだけを対象とするリフォーム会社として発足。質の高いアフターサービスを行い、「ロングライフ住宅」としてのお客様満足の実現に寄与しています。

社会資本としてのヘーベルハウスの価値を維持し、  
環境と社会に貢献します。

戦後の日本の住宅政策は、質より量のいわゆるスクラップ&ビルドでした。しかし現代では、建設廃材やCO<sub>2</sub>発生の問題も含めてこの考えは受け入れられなくなってきています。本当に愛着が持てる良い住まいを長く大切にしながら暮らしていきたいという、人びとの意識も変わってきました。60年以上の耐用年数を誇るヘーベルハウスは時代のニーズを先取りした住まいであり、「長持ち」であることはそれだけで環境にやさしいものであると自負しています。実際、建築されたヘーベルハウスの約9割が今も住まいとして活躍しています。

旭化成リフォームは、ロングライフ住宅の「長持ち」であるという特長を最大限に活かし、お客さまの生活の変化に寄り添い、快適な住環境づくりのお手伝いをしています。

従来のリフォームは、建物や設備の老朽化対策として、経年劣化による部分交換が主体でした。このような考え方のリフォームも重要ですが、本当の意味での「暮らしやすさ」を実現するためには、住まい手のライフステージの変化に対応することが重要であると考えています。子供が成長して独立した、離れていた親と同居することになった、定年を迎えて家で過ごす時間が長くなった、そういった人生のステージの変化に合わせて、その舞台である家もまた変わるの、むしろ当然のことです。

このようなニーズを実現するために、「旭化成リフォーム」は、新築時から住まい手の将来の生活変化に寄り添いながら、過去・現在・将来のそれぞれの生活スタイルに合わせた暮らし方をリフォームで実現していきます。

都市における

## リフォームの問題

- ・リフォームへの不安、何を・どのように？
- ・リフォームの自由度の低さ

## ヘーベルハウスだからできる二度目の住まいづくり

ヘーベルハウスの基本構造は、少なくとも60年間メンテナンスフリー。すなわち、最低60年間は建替えずに骨組みを活かし、スケルトンから家をつくり直すことができるということ。価値のなくなる構造はそのままに、スケルトン以外の内部構造やレイアウトはまったく変えてしまうことができるのがヘーベルハウスの良さ。通常のリフォームは当然として、2階の床を抜いて吹き抜けにするなど大胆なレイアウト変更も可能です。また、内部の部材や窓を替えて省エネ性を大幅にアップしたり、太陽光電池を搭載して環境性能を上げたりするなど、新しいテクノロジーを導入し、新築同様の性能を手に入れることも可能です。



改築途中で現れたヘーベルハウスの躯体

都市における

## 高齢年マンションの問題

- ・老朽化したマンションの増加
- ・居住者の高齢・孤立化
- ・合意形成のむずかしさ

# 都市の社会課題に取り組む マンション建替え

旭化成不動産レジデンスは、長年にわたる住宅事業への取り組みで培ってきた合意形成力を活かして、マンション建替え・市街地再開発・都市市街地共同化の3事業に特化した都市開発事業を展開しています。

## マンション高経年化時代の到来。 「旧耐震マンション」106万戸の現実があります。

わが国における分譲マンションの供給は昭和40年代にはじまりましたが、その頃に建築されたマンションは現在、構造や設備の老朽化だけでなく、エレベーターがない、耐震性不足など、深刻な問題を抱えています。特に耐震性能に不安のある「旧耐震基準で建てられたマンション」は日本全国に106万戸を数えますが、そのうち建替えが完了したものは約200棟(1万6千戸ほど)しかありません。

そういった老朽化マンションが社会的課題となっている一方で、権利を持つ生活者にとっては生活や財産が切実な問題です。建替えには区分所有者の必要数の決議が必要となりますが、その意向はさまざまで、それぞれの不安や不満があり、スムーズに決議に至らないケースも多くあります。

旭化成不動産レジデンスは、長年にわたる住宅事業で培ったコンサルティング力と多くのマンション建替えを経験したノウハウで、最終的な合意に導きます。

## さらなる「合意形成力」が求められる時代。 わたしたちの力を発揮できる場は広がっています。

建替えられたマンションのなかには建替えによって面積が大幅に増加するなど、恵まれた事例もありますが、その数は多くあり

ません。特に、今後建替え適齢期を迎えるマンションの多くは、従来のような面積の大幅な増加が見込めないことから、建替えに際して住民が大きな負担を強いられるケースが増えると思われます。



マンション建替え研究所の研究者

そういった環境が、わたしたちの合意形成力が活かせる場であると考えています。通常のマンション建替えの流れは、ディベロッパーが関与し、主には経済的なメリット・デメリットを住民に対して説明し同意を得ています。わたしたちは、土地や建物だけでなく「そこに住む人と暮らし」を見つめ、全居住者の暮らしを守ることを主眼においた、「新しい暮らしの提案」を大切にしてきました。これまでの暮らしをより快適にすることができるという発想、安心感、それが、小規模マンションの建替えや、公園や公道の移設を伴う難易度の高い建替えの実現につながっています。

2011年4月にはこれまでの経験を活かし、マンション建替えに関して実情に即した情報発信とサポートを行うマンション建替え研究所を設立。情報発信やセミナー・勉強会の実施による管理組合のサポート強化など、時代が求める取り組みを進めています。

マンション建替え研究所は、その社会的意義を評価いただき、公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2013年度グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

## 旭化成リフォームのご提案する「リフォームプラン」

わたしたちはバリアフリーなどのハード面のリフォームはもちろん、豊かな「暮らし」そのもの(ソフト)をご提案しています。

### 【二世帯再生タイプ】

二世帯住宅のうち、空いた片世帯空間の有効活用

### 【コンパクト二世帯タイプ】

単世帯の二世帯化リフォーム

### 【Welliving(ウェルリビング)タイプ】

2階の余剰空間を吹抜けとし、2階にサブリビング

### 【おとな3人リビング】

熟年夫婦と単身の子に向けた改装リフォーム

### 【家事郎の一日】

定年後の夫の家事参加を促進する1階全改装

## 俺に家の事をまかせてみないか？

2015年発表リフォームプラン「家事郎の一日」

定年退職後の「夫婦2人の快適生活」を提案



## 建替え事例 渋谷公園通りに街と住まいが緩やかに繋がるマンションを実現(アトラス渋谷公園通り)

宇田川町住宅は、昭和36年に東京都住宅公社(現 東京都住宅供給公社)により分譲され、店舗と事務所、住宅が混在する建物でした。築後40数年が経過するなかで建替えの検討が本格化し、平成21年に旭化成不動産レジデンスが事業協力者に選定され、平成22年9月に区分所有者全員の合意を得て建替え決議が成立しました。

建替え前



建替え後



所在地	東京都渋谷区宇田川町
従前建物 建築時期	昭和36年(1961年)竣工
敷地面積	約870㎡
建替え決議等	区分所有法第62条に基づく建替え決議
事業手法	マンション建替え円滑化法に基づく組合施行
建替えの経緯	平成21年6月 事業協力者の選定
	平成22年9月 建替え決議
	平成23年3月 マンション建替組合設立認可
	平成24年2月 工事着工
	平成25年10月 工事竣工



# 環境・社会活動に関するマネジメント

旭化成ホームズグループは、全旭化成グループの一員として、法令などの社会的規範、社内規程等を遵守するとともに、人権、地域の文化・慣習を尊重し、また、高い倫理観に基づいて行動することにより、世界中の人びとから信頼される企業であり続けます。

## コンプライアンス・RC推進本部長メッセージ

執行役員 コンプライアンス・RC推進本部長 **桑原 良介**

旭化成ホームズグループは、事業活動を通じて、グループビジョンである「一人でも多くのお客様に、一日でも早く、快適な生活をお届けすることが環境・社会への貢献活動そのものであると考えています。昨年度「グループ全体に安全及び漏れのないコンプライアンスの組織風土を作り定着を図る。」というミッションのもとコンプライアンス・RC推進本部を新設しました。法令遵守はもちろん、社会の要請に応えるという目的のもと今後も体制の強化を推進していきます。さらに、環境・社会に貢献するロングライフ住宅を実現すること、労災及び事故の撲滅のため、RC活動の徹底も推進していきます。



## RC管理本部長メッセージ

コンプライアンス・RC推進本部 RC管理本部長 **竹内 誠**

今年は、二世帯住宅発足40周年にあたります。二世帯住宅は、旭化成ホームズが生み出した住まい方の提案です。もともとは、土地の有効利用が主な目的でスタートした構想でしたが、この二世帯同居の効果は、エネルギー効率やさまざまな面で環境保全に寄与していることが、その後の研究で分かってきました。旭化成ホームズが、ハード面だけでなく住まい方というソフト面でも、時代にさきがけ取り組んできた賜物と言えます。旭化成ホームズは、ロングライフ住宅の実現を経営方針として掲げ、社会的に価値の高い住宅を提供することを常に考え、努力を重ねてまいりました。今年の、二世帯40周年を機に、これからの住まい方をさらに見直す良い機会になると思います。本誌は、そんな思いで編集されています。これからの住宅のあり方を、本誌を通じて皆様とともに考えていければ幸いです。



## コンプライアンス

### 企業倫理推進体制

旭化成グループは、グループ内のコンプライアンス教育や法令遵守状況のモニタリングを行う「企業倫理委員会」を設置し、企業倫理に関する審議と全社方針の決定を行っています。同委員会の委員長は持株会社（旭化成株式会社）の社長執行役員が務め、問題点の抽出や改善策の検討を行い、グループ全体のコンプライアンスの推進に努めています。

### 企業倫理に関する方針・行動基準

1998年8月に制定した「企業倫理に関する方針・行動基準」は、旭化成グループの役員及び社員一人ひとりが、日々の行いで心がけるべき事項をまとめたものです。本方針は、「旭化成グループ基本理念」に沿って事業活動を行う上で守るべき方針であり、本行動基準はこの方針を遂行するための具体的な行動基準です。毎年1回、社会的要請の変化に対応するための内容見直しを行っています。

### 企業倫理に関する方針

1. 価値創造と社会貢献
2. 環境・安全・健康への配慮
3. 社会的規範の遵守
4. 反社会的勢力の排除
5. 人権の尊重
6. 経営の透明性の確保
7. 情報と知的財産の尊重
8. 企業倫理の実践



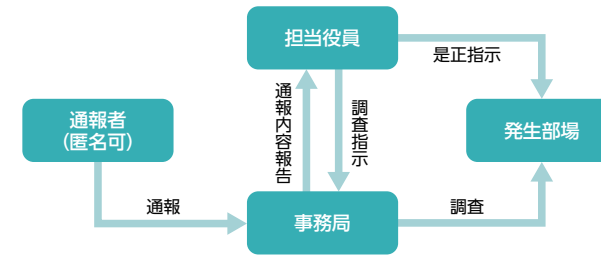
企業倫理に関する方針・行動基準(冊子)

### 内部通報制度

旭化成グループは、コンプライアンス違反に関する情報を速やかに収集し対策を講じることを目的として、2005年より内部通報制度を導入・運用しています。通報手段にはイントラネットと封書(指定する弁護士事務所宛)があり、匿名、実名いずれでも受け付けています。なお、通報者に対し、通報を理由とした不利益な取り扱いが行われないための措置を講じています。

### 内部通報制度の運用例

匿名でイントラネット通報し、通報内容が事実であった場合



### 旭化成ホームズのコンプライアンス体制

旭化成ホームズでは、旭化成グループの方針に準じ、コンプライアンス体制確保のため、部門ごとのコンプライアンス対応状況を確認する「コンプライアンス連絡会」を社内に設け運営しています。また、社員に向けたコンプライアンス教育を階層別を実施し、社員一人ひとりの意識(自分事化)向上を図っています。

### コンプライアンス教育

対象者	研修内容
新入社員	コンプライアンスとは何か？ 社会人として必要なコンプライアンス知識を習得する
新任課長	コンプライアンスとは何か？ 上司としてコンプライアンス上必要な知識を習得する
課長以上の職責者	職責者としてコンプライアンス上必要な知識を習得する
支店長	コンプライアンスのためのマネジメントについて学習する

## 環境・社会活動に関するマネジメント

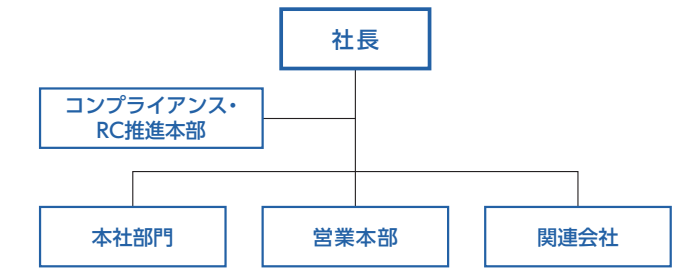
### 全体に対する体制

旭化成ホームズグループの環境・社会に関する活動は、事業プロセス全体にわたっています。そのため、環境・社会に関する各テーマのマネジメントは事業そのものの体制によって管理されています。その活動の結果は経営層によって審議・承認及び必要に応じた指示が行われるほか、親会社である旭化成株式会社の各専門部門に報告される仕組みとなっています。

### コンプライアンス・RCに関するマネジメント体制

レスポンスブル・ケア(RC)活動とは、化学物質を扱う企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るまで、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会とのコミュニケーションを図る活動です。旭化成グループは、ケミカル事業分野にとどまらず、全事業領域においてRC活動を実施しています。私たち旭化成ホームズもグループの一員として1995年よりRC活動を導入し、グループ会社及び協力業者様も含め環境保全や安全衛生管理などを行っています。

### コンプライアンス・RC体制図(旭化成ホームズ)



また、旭化成ホームズグループは、2014年度からコンプライアンス活動とRC活動を同一のマネジメント体制の下に管理していく体制へ移行し、環境・安全・健康・コンプライアンスを管理するコンプライアンス・RC推進本部が設置され、環境・安全・健康の確保と、コンプライアンス活動の推進を図ります。

### コンプライアンス・RCの取り組み

コンプライアンス・RCの取り組みの中で、環境管理については、環境目標管理のPDCA(Plan - Do-Check-Act)サイクルの仕組みを中心に実施しています。環境目標は、事務局であるコンプライアンス・RC推進本部が、環境目標の設定、進捗管理について各部門及び関連会社のサポートを行っています。毎年4月に各部門が設定する環境目標の達成状況は全社の「経営会議」「環境委員会」「安全委員会」及びRC管理部がRC活動全般の活動を監査する「RCヒアリング」により確認されます。



旭化成住工 RC大会の様子

### RCヒアリング

RCヒアリングでは、活動状況の確認を中心に、必要に応じて環境の取り組みに関する情報の提供やアドバイス、各部署からの要望の聞き取りなどを行っています。2014年度は、各営業本部(9本部)、旭化成住工、旭化成リフォームを含む関係会社5社の計14箇所まで2回/年のヒアリングを実施し、「環境理念」の共有、環境活動目標と部署ごとの実行計画の確認、進捗確認などを行いました。それらのレビュー結果は持株会社が各事業会社や支社に対して年1回行っている「RC監査」で報告し、旭化成グループ全体で確認・評価されます。



# 環境目標と実績

環境方針を具現化する目標を設定し、その実績を評価しています。

テーマ	2014年度 計画	2014年度 実績	評価	関連頁	
1 低炭素社会へ向けて	環境配慮住宅の提供	①[LCA・CO <sub>2</sub> 削減貢献度]の拡大→目標値【9.8】	実績値【9.8】	😊	22
		②自然の恵み利用設備の普及促進(太陽光・太陽熱・地中熱など) CO <sub>2</sub> 削減目標 戸建856kg-CO <sub>2</sub> /棟 メゾン1,098kg-CO <sub>2</sub> /棟 自然の恵み(光・風など)を巧みに取り入れる設計ガイドライン作成	戸建903kg-CO <sub>2</sub> /棟 メゾン1,226kg-CO <sub>2</sub> /棟	😊	22
		③高効率・省エネ設備の普及促進 CO <sub>2</sub> 排出量削減目標:358kg-CO <sub>2</sub> /年・棟	382kg-CO <sub>2</sub> /棟	😊	22
		④次世代省エネ基準の住宅供給率向上→目標99.3%	実績 99.3%	😊	22
	アフター分野での環境貢献	①ロングライフプログラムの推進: 定期点検における維持管理の必要性の啓発を維持する。 エコ商品拡販	「個別ロングライフプログラム」の定期点検時の説明100%実施 外壁塗装塗替え自社カバー率60.3% 屋根防水貼替え自社カバー率75.4% ストック住宅に対しエコ商品の拡大:エコキュート、窓断熱、 節水トイレの積極販売	😊	24
		②ストック流通仲介の促進 ストックの長期利用による建替え廃棄軽減→目標200棟/年	実績172棟/年	😊	-
		③既存住宅の環境負荷低減→CO <sub>2</sub> 削減量 4,300 t/年	合計 3,310t/年	😊	-
		④長寿命化による建替え廃棄削減	上記①～③による寿命確保	😊	24
	CO <sub>2</sub> 排出量の把握と削減	①事務活動(工事管理含む)CO <sub>2</sub> の把握と削減→原単位1%削減	原単位 10.3% 削減(対前年度比)	😊	24
		②工場生産エネルギー原単位 住工:2013年度売上高比 1%削減 建材:エネルギー原単位又は電気需要平準化評価原単位の 対前年度比 1%削減	住工:2013年度売上高比 4.8%削減 建材:2013年度比 2.1%増加	住工:😊 建材:😞	25
		③輸送活動CO <sub>2</sub> の把握と削減 原単位1%削減の継続[対前年度比] 環境対応車の増車(ハイブリッド・CNG) 拠点再編、幹線物流の見直し	・原単位 3.8% 増加 ・環境対応車の増車継続実施 ・拠点再編、幹線物流の見直し継続実施	😞	25
		④施工活動CO <sub>2</sub> の把握と削減→工期短縮による原単位削減	原単位 横ばい	😞	24
2 循環型社会に向けて	産業廃棄物の削減	①新築現場施工で発生する産業廃棄物の削減継続(1.60t/棟)	平均 1.76t/棟	😞	26
		②工場生産で発生する産業廃棄物の削減継続 住工:2013年度売上高比 10%削減 建材:最終埋め立て処分ゼロの継続	住工:2013年度売上高比 7.8%削減 建材:最終埋め立て処分ゼロの継続達成	住工:😊 建材:😊	26
		③新築及びアフターメンテナンスの現場施工で発生する 産業廃棄物の再資源化推進→最終処分率0.52% (アフター分の資源循環センター扱い量の拡大)	最終処分率 0.43%	😊	26
省資源の推進	①事業活動における紙使用量の把握と削減原単位1%減	原単位 1.9% 削減(対前年度比)	😊	-	
	②事業活動における水使用量の把握と削減 住工:原単位2013年度売上高比1%削減 建材:地下水採取における法令遵守	住工:原単位2013年度売上高比 0.8%増加 建材:地下水採取における法令遵守の達成	住工:😞 建材:😊	-	
3 自然共生社会に向けて	生物多様性の保全	①「あさひ・いのちの森」生物多様性等についての調査継続 生物多様性に配慮した都市住宅の庭への展開	生物多様性に配慮した 「都市住宅の庭」の外構緑化パッケージを提案	😊	27
		②認証材(認証過程材を含む)の比率を70%以上とするため、 「床材」の課題確認と対策の検討を継続する 2014年度内に目標達成を目指す	目標達成のため、「床材」の課題確認と対策の検討を実施 →結果、認証過程材の確認が取れ、全体として認証材 (認証過程材を含む)比率99%を達成	😊	27
	化学物質の使用量・ 排出量削減	①内装健康仕様に向けた技術確立 現場実態調査を継続	22棟 現場計測実施	😊	-
4 社会との価値共創へ向けて	環境教育・啓発	①環境意識啓発活動の実施 「しぜんごこちの家」普及の推進 出張授業の推進 環境イベントの開催	「しぜんごこちの家」普及活動実施 小学校・中学校 出張授業の実施 その他 環境イベント参加 (エコツェリア協会、朝日新聞社地球教室)	😊	28
		富士支社の対外的な活動の一環で以下のイベントに参加 (ホテルまつり、支社敷地周辺の清掃活動など) 富士市内の学校の教育プログラムに協力	住宅総合技術研究所が参加・協力 中学校2校の体験学習実施	😊	36,37
		③EcoソウさんClub新規登録数300家庭 「2014年夏の省エネキャンペーン」計画	・EcoソウさんClub新規登録数378家庭(総数4,174家庭) ・EcoソウさんClub活動報告～10年を振り返って～リリース ・ヘーベリアンネット連携企画 【2014年夏の省エネキャンペーン】実施 【キャンペーン参加者】 対2013年7-9月CO <sub>2</sub> 削減11% 【会員全体】 対2013年7-9月CO <sub>2</sub> 削減平均2% 対2010年7-9月CO <sub>2</sub> 削減平均25%(電気、ガス、水道)	😊	28
	地域貢献	①地域社会の環境活動への参加拡大	旭化成住工にて実施	😊	37
法令遵守	①産業廃棄物の適正処理実施(当社排出分)事故発生ゼロ	事故なし	😊	26	

## 環境目標・指標

今回新たに2015年度を起点に2020年度を到達点とする中期目標を設定し、活動を開始しています。

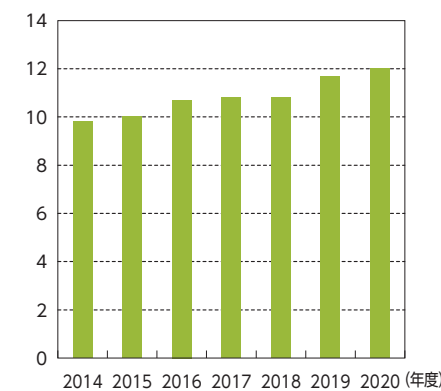
テーマ	中期目標(～2020年度)	2015年度 目標	
1 低炭素社会に向けて	1-1. 環境配慮住宅によるCO <sub>2</sub> 削減貢献と事業活動CO <sub>2</sub> 削減	[LCA・CO <sub>2</sub> 削減貢献度]* (2020年度:[12.0])  ・高断熱化の推進(2018年度～) (2020年度:CO <sub>2</sub> 貢献量48万t-CO <sub>2</sub> ) ・自然の恵み・高効率設備搭載による 環境配慮住宅の普及・拡大 (2020年度:CO <sub>2</sub> 貢献量68万t-CO <sub>2</sub> ) ・事業活動CO <sub>2</sub> 排出削減 (2020年度:CO <sub>2</sub> 排出量9.7万t-CO <sub>2</sub> )	[LCA・CO <sub>2</sub> 削減貢献度]*:[10.0]  <CO <sub>2</sub> 削減目標> ・自然の恵み設備(太陽光・太陽熱・地中熱等): (戸建)962kg-CO <sub>2</sub> /棟、(メゾン)1,348kg-CO <sub>2</sub> /棟 ・高効率設備(燃料電池・ヒートポンプ等): 388kg-CO <sub>2</sub> /棟 ・事業活動(事務・工場・輸送・施工)CO <sub>2</sub> 排出削減: 原単位1%減
	1-2. アフター分野によるCO <sub>2</sub> 削減貢献	・ロングライフプログラムの 自社実施率向上による長寿命化 ・ストックヘーベルハウス拡大 ・エコリフォームの拡大	・ロングライフプログラムの自社実施率:80% ・ストックヘーベルハウス件数:200棟(累計2,000棟) ・エコリフォームの拡大:(太陽光2,600棟)
2 循環型社会に向けて	2-1. 産業廃棄物の削減	・新築現場の産業廃棄物削減 (2020年度:1.60t/棟) ・工場生産の産業廃棄物削減 [住工]:対2014年度比10%減レベル維持 [建材]:ゼロエミッション継続	・新築現場の産業廃棄物削減の継続実施(1.75t/棟) ・工場生産の産業廃棄物削減 [住工]:10%減[2014年度売上高比] [建材]:ゼロエミッション継続
	2-2. 省資源の推進	事業活動における水・紙(オフィスペーパー) 使用量の削減 ・水[住工]:原単位6%減(対2014年度) [建材]:法令遵守継続 ・紙(オフィスペーパー) 原単位6%減(対2014年度)	・事業活動の水使用削減 [住工]:1%減[売上高比]、 [建材]:法令遵守継続 ・事業活動の紙(オフィスペーパー)使用削減 原単位1%減
3 自然共生社会に向けて	3-1. 生物多様性に配慮した住まいづくりの推進	生物多様性に配慮した「都市住宅の庭」の実現	生物多様性に配慮した「都市住宅の庭」に向けた 外構緑化パッケージの導入
	3-2. 木材グリーン調達 の継続実施	木材認証材(認証過程材)の使用継続 (99%レベル維持)	木材認証材(認証過程材)の使用継続 (99%レベル維持)

\* (LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度) = (CO<sub>2</sub>貢献量) / (事業活動CO<sub>2</sub>排出量) [P.22参照]

## 低炭素(CO<sub>2</sub>)関連の中期指標

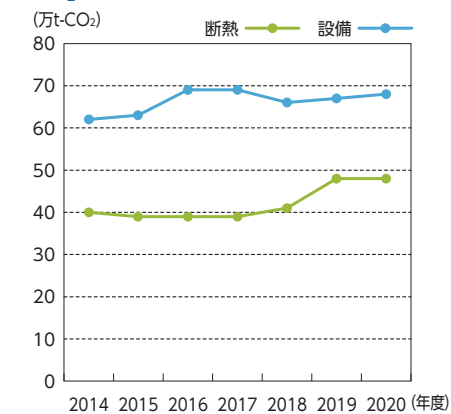
2014年度は実績値。2015年度以降は目標値

LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度



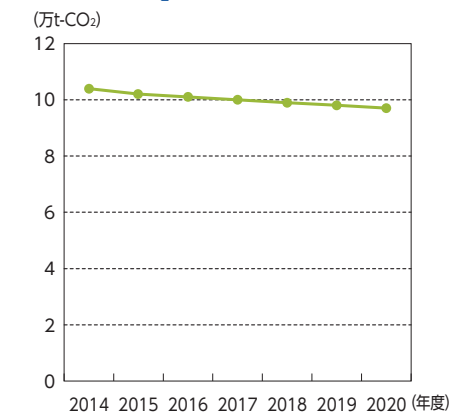
「CO<sub>2</sub>貢献量」拡大と「事業活動CO<sub>2</sub>排出量」削減による貢献度アップ

CO<sub>2</sub>貢献量



高断熱化の推進と自然の恵み・高効率設備拡大

事業活動CO<sub>2</sub>排出量



排出量削減活動の継続



# 旭化成ホームズグループと環境のかかわり

お客様へ快適な住まいをお届けする事業の過程で、様々な環境への影響が生じます。旭化成ホームズでは、住まいの開発・設計、工場生産、輸送、施工段階での省エネルギー、省資源、廃棄物削減などに努めることはもちろん、お客様がお住まいになってからのエネルギー消費を低減できる商品開発にも取り組み、広い視野に立った環境配慮のもとで事業を展開しています。

### 開発・設計

**INPUT** 投入資源量 → **OUTPUT** 排出量

エネルギー計 <b>108,427GJ</b>	CO <sub>2</sub> <b>6,425t-CO<sub>2</sub></b>
電力 2,994MWh ガソリン 2,271kl	

排出量 事業所の電力、ガソリンなどのエネルギー消費  
主な環境活動 環境配慮型住宅の提供

### 工場生産

**INPUT** 投入資源量 → **OUTPUT** 排出量

エネルギー計 <b>1,102,388GJ</b>	CO <sub>2</sub> <b>47,032t-CO<sub>2</sub></b>	排出物 <b>14,224t</b>
電力 43.061MWh 灯油 245kl 重油 14,965kl 軽油 1,224kl ガソリン 6kl LPG 23t 都市ガス 1,208千㎡		木くず 110t(100%) 廃プラスチック 636t(100%) 金属くず 5,609t(100%) 紙くず 91t(100%) 汚泥 386t(100%) その他 7,392t(100%) ( )は再資源化率

排出量 旭化成住工株式会社と旭化成建材株式会社における、電力や重油などのエネルギー消費や、廃棄物の排出  
主な環境活動 省エネルギー、ゼロエミッション

### 輸送

**INPUT** 投入資源量 → **OUTPUT** 排出量

エネルギー計 <b>423,145GJ</b>	CO <sub>2</sub> <b>29,013t-CO<sub>2</sub></b>
軽油 11,224kl	

排出量 鉄骨やへーベル、廃棄物などを運ぶ際のエネルギー消費  
主な環境活動 共同調達、幹線輸送の拡大、モーダルシフトの推進

### 施工

**INPUT** 投入資源量 → **OUTPUT** 排出量

エネルギー計 <b>217,451GJ</b>	CO <sub>2</sub> <b>12,771t-CO<sub>2</sub></b>	排出物 <b>18,015t</b>
電力 6,621MWh 軽油 1,204kl ガソリン 3,065kl	CO <sub>2</sub> <b>0.707t-CO<sub>2</sub>/戸</b>	木くず 2,769t(100%) 廃プラスチック 3,873t(100%) 金属くず 790t(100%) 紙くず 2,460t(100%) 廃石膏ボード 4,013t(100%) その他 4,110t(100%) *2014年度施工 18,064戸 ( )は再資源化率

排出量 施工现场におけるガソリンや電力などのエネルギー消費や、廃棄物の排出  
主な環境活動 現場のゼロエミッション、リデュースの推進

再資源化      再利用

### 解体・処理

**INPUT** 投入資源量 → **OUTPUT** 排出量

エネルギー計 <b>125,051GJ</b>	CO <sub>2</sub> <b>8,754t-CO<sub>2</sub></b>	排出物 <b>223,097t</b>
軽油 3,317kl		木くず 44,084t(99%) 金属くず 4,151t(100%) コンクリートから 123,340t(99%) 廃石膏ボード 6,126t(87%) その他 45,396t(77%) ( )は再資源化率

### アフターメンテナンス



住まいを長く丈夫に保つため、60年にわたり、基礎やベランダの防水性などを点検します。これにより、環境への負荷を低減します。

### 環境コミュニケーション

コミュニティサイトや会報誌などで、広く直接お客様の声に触れることで、これからの活動に活かせるよう努めています。



EcoゾウさんClub      へーべリアンネット

### 居住

居住系CO<sub>2</sub>量 (モデルケース参考値) **3.8t-CO<sub>2</sub>/戸**

冷房、暖房、給湯、換気、照明などによる電力、ガス、灯油の資源消費

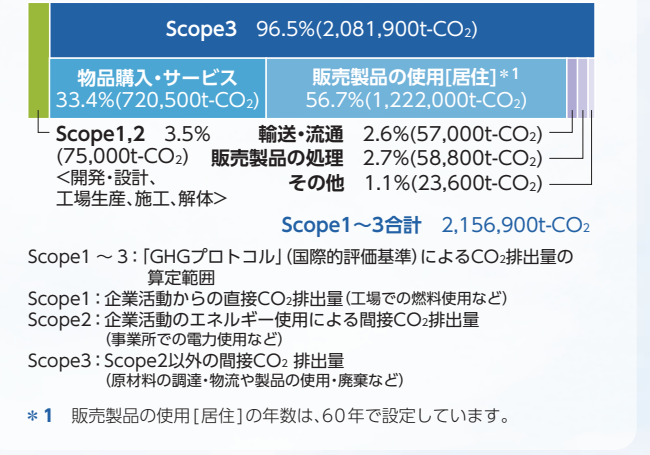


へーベルハウス      へーベルメゾン

これまで蓄積してきた省エネルギーのノウハウを活かし、環境にやさしい住まいの在り方を提供しています。

## Scope1~3におけるCO<sub>2</sub>排出量(2014年度)

サプライチェーン全体での間接的な排出量を把握することにより我々の事業活動が、原材料の調達から製品の使用・廃棄に至るまでの環境負荷にも大きく関わっていることをしっかりと認識した上で、広い視野からのCO<sub>2</sub>削減活動にも取り組んでまいります。





# 低炭素社会へ向けて

旭化成ホームズは、ヘーベルハウスによる自然の恵みを利用した設備の導入や自然を享受する住まい方提案、事業活動に伴うCO<sub>2</sub>の削減を通して、低炭素社会の実現に取り組んでいます。

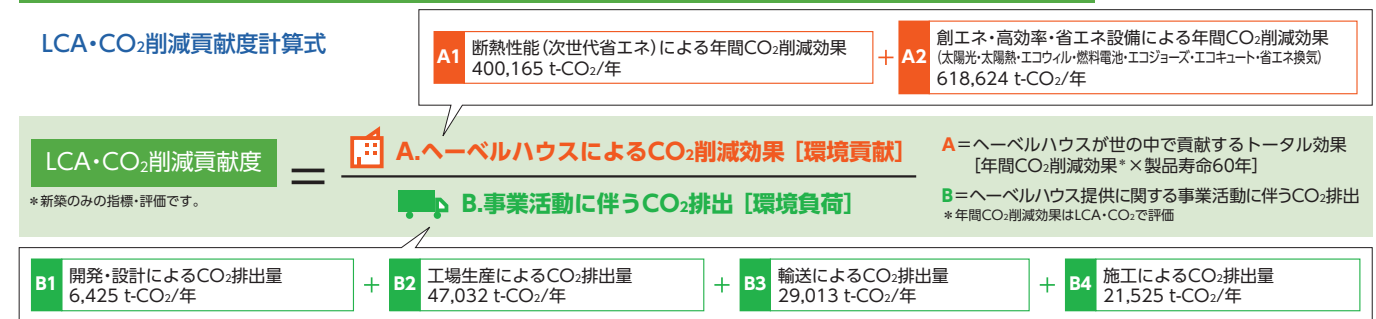
## LCA\*1・CO<sub>2</sub>削減貢献度の拡大

「LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度」とは、開発・設計などの事業活動に伴う年間CO<sub>2</sub>排出量を分母とし、断熱性能や太陽光発電システムなどの設備による年間CO<sub>2</sub>削減効果を分子として算出される指標で、その数値が高いほど貢献度が高いと見なされます。事業活動による環境負荷が小さくなり、製品提供による環境貢献が大きくなるほどこの指標は高くなります。

2014年度の貢献度は、目標値9.8をクリア。(昨年度:9.7)これは、太陽光発電や燃料電池等の創エネルギー設備を中心とした「環境貢献」を順調に拡大できた結果です。今後も製品提供によるCO<sub>2</sub>削減を継続するとともに、事業活動によるCO<sub>2</sub>排出削減に努めていきます。

\*1 LCA: ライフサイクルアセスメント。製品の設計・製造から廃棄に至る全段階の環境負荷を科学的・定量的に評価する手法。

## LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度の指標化 2014年度目標: 9.8 → 実績: 9.8



2014年度の実績数値 2014年度の実績9.8とは事業活動でのCO<sub>2</sub>排出量を1とした場合、ヘーベルハウスによる2014年度のCO<sub>2</sub>削減量が9.8になるということです。

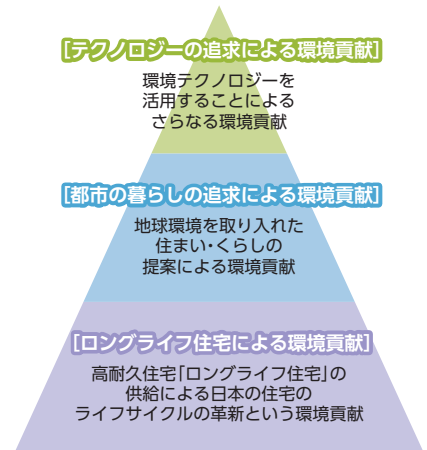
**A2**=618,624 t-CO<sub>2</sub>/年 (内訳)

● 太陽光発電システム	435,735 t-CO <sub>2</sub> /年	● 燃料電池	52,409 t-CO <sub>2</sub> /年	● 省エネ型常時換気システム	48,599 t-CO <sub>2</sub> /年
● 太陽熱温水器	289 t-CO <sub>2</sub> /年	● エコジョーズ	30,666 t-CO <sub>2</sub> /年		
● エコウィル	4,446 t-CO <sub>2</sub> /年	● エコキュート	46,480 t-CO <sub>2</sub> /年		

## 旭化成ホームズが考える都市型環境配慮住宅

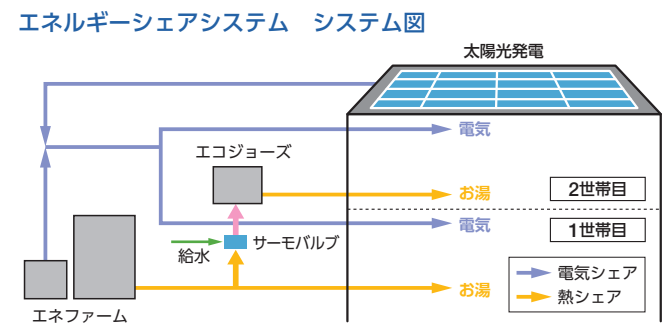
当社は創業以来、それまで日本になかった高耐久住宅ヘーベルハウスを提供し続けています。それは、当時約20年と言われた日本の住宅の寿命を60年以上に向上し、住み続ける家、住み継ぐ家へと変えていく提案であり、日本の住宅のライフサイクルを革新的に変え、環境貢献につながっています。そして、ヘーベルハウスの環境貢献は、当社が主にサービスを提供する都市でさらに磨きがかけられました。都市は利便性が高い分、住宅が密集し、近隣の火災や地震後のリスクが高まります。ヘーベルハウスは耐火、耐震性能に優れており、居住者の安全と安心を確保しつつ、長く住み続けることができるという都市の住まいに必要な特長を備えています。私たちはそれに加えて近隣の状況や建築条件に配慮し、厳しい条件のなかでより快適で健康的な暮らしを実現するための取り組みを行ってきました。安全・安心という基本性能を備えたヘーベルハウスで都市の自然を享受すること、例えば空を身近に感じ、近隣の隙間から差し込む日差しや風の通り道を活用するといった暮らし方の提案です。これらを実証するために自然の恵

みを取り込む研究を行い、それを設計に反映するノウハウを蓄積してきました。このような自然環境の住居への取り込みは結果的に生活の省エネルギーに大きく貢献しています。基本的に大きな環境性能を有するヘーベルハウスは、都市の環境を最大に活かす研究と設計力と共に、近年の環境テクノロジーを駆使してさらなる環境性能向上を実現しています。現在、行政を中心にハウスメーカーが進めているZEH(ゼロエネルギー住宅)は、断熱性能の向上と太陽光発電のような自然エネルギーの導入の相乗効果で実現できるものです。ヘーベルハウスはその構法の特長を活かし、高断熱仕様にも対応することが可能です。



## 二世帯住宅向け「エネルギーシェアシステム」

近年の地球温暖化問題に加え、東日本大震災以降、電力の安定供給に対する不安が顕在化し、省エネルギーやエネルギーの高品位・安定供給に対する社会的要請が高まりました。また、太陽光発電や燃料電池のようなクリーンエネルギーの高効率使用や分散型エネルギーシステムの重要性が一般に認知され始めました。当社でも様々な住まい方における省エネルギー研究を進めています。そのひとつとして、複数家族が同居する二世帯住宅は、親世帯と子世帯が別々に暮らす場合と比較して省エネが進み、CO<sub>2</sub>排出量や光熱費を削減できることがヘーベルハウス実邸調査により明らかになりました。このような研究結果を受け、二世帯住宅向け「エネルギーシェアシステム」を開発いたしました。二世帯住宅において、「一緒に作り、一緒につかう」という発想から生まれたヘーベルハウス独自のシステムです。燃料電池と太陽光発電で作った電気と熱を二世帯間で分け合い、光熱費・CO<sub>2</sub>排出量の大幅削減を実現することを目指しました。このシステムを搭載した二世帯ヘーベルハウスの「省CO<sub>2</sub>二世帯推進プロジェクト」は2012年度第1回建築・住宅省CO<sub>2</sub>先導事業に採択されました。本プロジェクトに参画いただいたお客様の住宅(竣工から1年経過)にて現在、年間のCO<sub>2</sub>排出量・光熱費の実態を検証しております。電力やお湯を使う時間帯がずれる二世帯だからこそ、各機器を高効率の状態で長時間運転でき、光熱費を削減するとともに、機器本来の性能を十分に活かすこともできます。当社は、環境にも経済的にもやさしい「エネルギーシェアシステム」を今後とも普及してまいります。

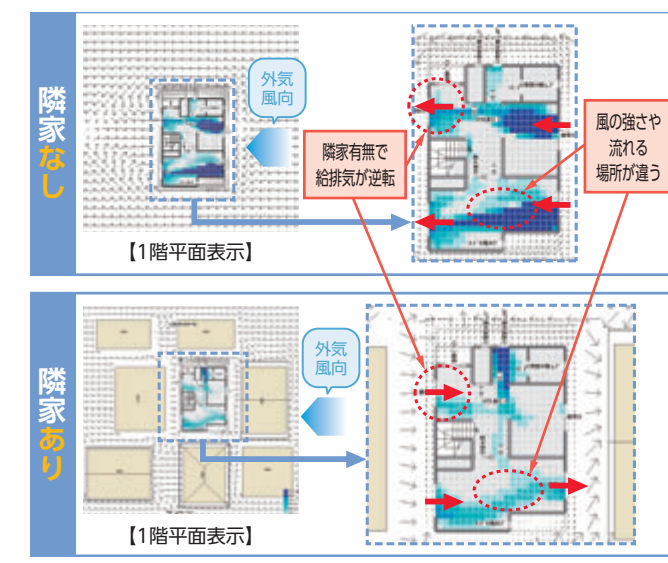


## 住環境シミュレーションシステム「ARIOS(アリオス)」改訂

当社が2002年に開発した住環境シミュレーションシステムARIOS(Asahikasei Real Integrated Organization and Simulation)は、計画している住宅や周辺建物などを入力することで、実際に建設する前に建物内の環境をグラフィックで表現し把握することができるシステムです。日照・通風のシミュレ

ションシステムとして開発して以来、日射、採光の機能を追加してきました。2014年度は、お客様が風と住まいとの関係をより正しく理解していただけるように風のシミュレーションの改定を行いました。一般的な風のシミュレーションでは、その地域の上空を流れる風の向きと速さをそのまま流用し、室内の風の風速を濃淡で表しているものが多く、風の状況が正しく捉えられていませんでした。風は流れてほしいところに、心地よく流れていくのか、という視点をお客様にお伝えすることが必要と考え、改定を行いました。主な改定ポイントは以下の3点です。

- (1) 市街地の風の動きをより実際に近い状態でシミュレーションできるようになりました。都市部では風は周辺建物の影響を大きく受け、風向、風速が変わります。周辺建物を入力することで、実際に住宅に当たる風の向き、速さを的確に把握するようにしました。(イラスト参照)
  - (2) お客様が屋内に流れる風の状態を理解しやすいよう、屋内に流れる風の強さを、風速値で表現しました。心地よい風の範囲を0.2~1.0m/sと定義し、リビングやダイニングなどの居場所を流れる風がこの範囲となるように、窓の位置や種類を考慮した設計ができます。さらに、屋内を流れる風の量を表示し、必要な通風量が取れているか判定できるようにしました。
  - (3) 通風は一般的にはリビングが重視されます。一方で夏の夜は寝室の通風にも配慮する必要があります。リビングは春の昼過ぎの通風、寝室は夏の夜の通風といったように、季節・時間帯だけでなく、部屋用途によっても風の条件を選べるようになっていきます。
- また、ARIOSの改定と併せて社内向けに「風の環境設計ガイド」を作成しました。これは、風の基礎知識と共に、風を活かした設計・プランニングのノウハウをまとめたものです。ガイドによる知識の向上と、シミュレーション(ARIOS)による検証で、お客様に快適な風のある暮らしを提供できるようになりました。





## 低炭素社会へ向けて

### 都市部の屋上活用

当社は、都市の限られた空間を有効活用する家づくりを追求し、優れた構造を活かした屋上利用住宅の提案をいち早く行ってきました。昨今の環境やエネルギーへの関心の高まりとともに、太陽光発電システムの搭載も注目を集め屋上屋根面への採用率も高まってきています。2014年度は、屋上利用と太陽光発電パネルの搭載のどちらかを選ぶのではなく、都市住宅の新たな屋上スタイルの提案として、「太陽光発電×屋上利用」の併存を可能とした新商品を市場投入しました。自然の恵み(光、風、空)を暮らしに活かし、同時に楽しさ(眺望や開放感)も叶え、且つ環境への配慮も同時に実現した都市型住宅ヘーベルハウスならではの提案です。この新しいスタイルを提案するにあたって、いくつかの改良を行っています。例えば、コンパクトな屋上スペースでも、暮らしに必要なエネルギーを十分賄える分の太陽光発電パネルの搭載を可能とするために、屋上屋根面に最大限配置搭載可能な仕組みも併せて開発しました。従来は太陽光発電パネルの交換作業や屋根防水シートのメンテナンスのために使っていたスペースを大幅に縮小できる工夫を太陽光発電システム用架台に標準的に施し、屋上を最大限利用できるような提案ができるようになりました。また、屋上へのアプローチを容易にするためのペントハウス、屋上階段等の採用や、屋上の快適性をアップするための屋上照明、屋上コンセント、屋上緑化システム等を用意しました。



太陽光発電システム×屋上利用

### ロングライフプログラムに基づく維持管理の推進

当社は、邸別カルテに基づいた60年にわたる計画的なメンテナンスを導入、実施しています。主要構造の耐用年数を60年、屋根防水、外壁塗装などの各部材の耐久性を30年にまとめることで部材の交換・補修をまとめて行うことができます。メンテナンスにかかるトータルコストも低減しながら、住まい全体で60年以上の長期耐用を実現しています。このロングライフプログラム<sup>\*2</sup>

に基づく維持管理の推進として、「邸別ロングライフプログラム」を作成し、定期点検時にメンテナンス時期と費用についてお客様にご説明しています。その中で費用の積立金額をご提示し、将来のお客様の資金計画に役立てていただいています。

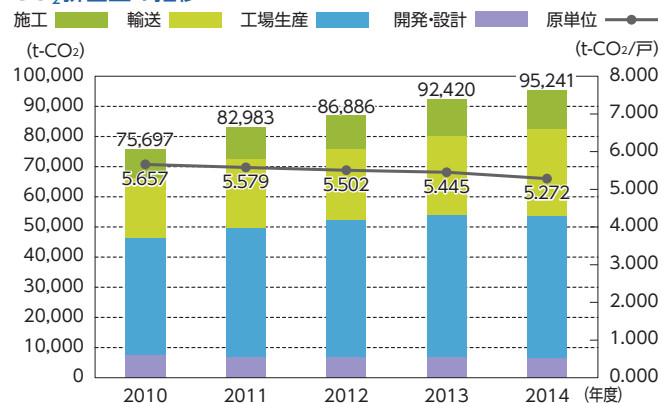
<sup>\*2</sup> <http://www.asahi-kasei.co.jp/hebel/feature/longlife/index.html/>

### 現場の工数削減によるCO<sub>2</sub>排出低減

施工現場では、CO<sub>2</sub>削減の取り組みとして工期短縮活動を実施しており、その中のメインの活動として2014年下期より「KikOff活動<sup>\*3</sup>」を推進しています。施工現場の工数を削減して工期を短縮することを目的として、施工部門全体で「新たな工法開発」・「工場加工(プレカット・プレセット)」・「納まりの単純化(部材数、現場加工の削減)」等のテーマでアイデアを出して取り組んでいます。代表的な活動は躯体工事での施工手順見直しによる工期短縮です。外壁を受ける部材の形状を見直すことにより、躯体工事での現行の作業手順を効率化し工数削減となるだけでなく、従来よりも安全な作業が実現できます。さらに現場における移動式クレーンの作業時間を軽減することができます。次に木工事での部材の工場加工(プレカット・プレセット)です。これも現場での工数が削減されるだけでなく、部材のカットに伴って発生する廃棄物排出量の削減にも寄与します。また、アパート用の玄関ドアをあらかじめ枠とセットして納入するなどの工夫も行っています。これら以外にも建設機械や運搬車両の使用によるエネルギー消費量の削減を図っています。どのテーマも活動途中であり、まだ効果が数値として現れてきていませんが、KikOff活動を施工部門が一丸となって推進し、現場の工数・工期を削減することでガソリンや電力などのエネルギー消費量や廃棄物の排出量の削減を図っていきます。

<sup>\*3</sup> KikOff活動:工期(K)、工数(k)をI&R(i)で一気に減らそう(Off)!

#### CO<sub>2</sub>排出量の推移



施工: 大きな構法変更がなく、工期・工数も横ばいのため原単位も横ばい  
 輸送: 一部部材の出荷拠点が限定化されたことと調達物流拡大(他社物流の取り込み)により、原単位はやや悪化(当社荷主分)  
 工場生産: 総量は横ばいだが、原単位は改善継続  
 開発・設計: 2014年度は引き続きの節電アクションにより、総量・原単位とも改善

### 工場におけるCO<sub>2</sub>低減活動

#### 旭化成住工の取り組み

旭化成住工滋賀工場(省エネ法の第一種エネルギー管理指定工場)は、継続してエネルギー原単位(売上高比)1%以上削減の省エネに取り組んでいます。2014年度のエネルギー原単位は、前年度比で4.8%の削減となりました。CO<sub>2</sub>排出量原単位(売上高比)も、2013年12月に実施した都市ガスへの燃料転換の効果により、前年度比で11.7%削減しています。

2014年度に実施した主な省エネ活動は、滋賀工場敷地内に新設した倉庫棟に売電と節電を目的として、発電能力664kwの太陽光発電パネルを設置し、2015年1月より稼働しました。2015年度の売電量は314,000kWhを見込んでいます。また、滋賀工場内エアコン13台の省エネタイプへの更新や、倉庫棟の照明(蛍光灯)126台を2灯式から1灯式に変更したことで、電力消費量の削減に効果がありました。各製造ラインでは、計画的にエア配管の漏れ確認と修理を実施し、エアコンプレッサの負荷低減による電力使用量の削減に寄与しています。

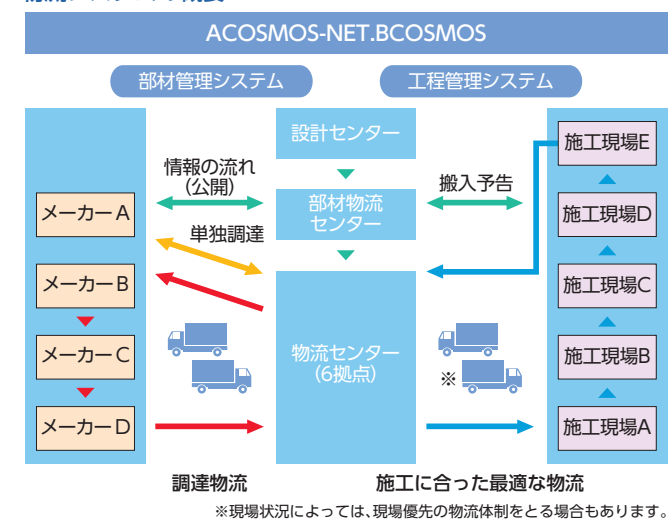
#### 旭化成建材の取り組み

各工場において、オートクレープ蒸気の回収使用やボイラーや電動機・照明器等を高効率化機種に更新することで継続的に省エネルギーへの取り組みを行っています。2014年度もヘーベル工場はエネルギー原単位が向上しましたが、ネオマ新設工場立ち上げに伴う原単位増の影響で単年度としては2.1%悪化しました。また、CO<sub>2</sub>排出量についても火力発電比率の増大に伴う電力のCO<sub>2</sub>排出係数が悪化した影響もあり、前年度に対して0.8%増加となりました。

### 輸送活動における取り組み

ヘーベルハウスの新築現場では、約10万点の部材が必要です。各地に存在する新築現場に対して、その工程にあわせた適材を輸送しなくてはならないため、物流の効率化はCO<sub>2</sub>排出量の適正化も含めて当社の大きなミッションです。物流の効率化を支えているのが、現場の工程管理システムに部材の納材システムを連動させた納材工程システムです。このシステムによって全国に設けられた6箇所の物流センター、4箇所のストックポイントから、複数の部材を工程ごとに納入するという効率化を実現しています。

#### 物流システムの概要



### モーダルシフト(船舶)の導入

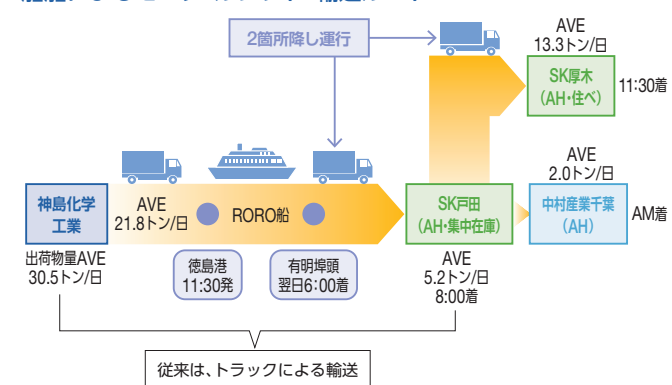
従来から当社では約50社の部材メーカーに対してトラックによる調達物流(荷主が物流業者に委託して、集荷に行く物流)を運用しています。この物流において、さらなる効率化とCO<sub>2</sub>削減のために他のハウスメーカーとの協働で混載合積みによる共同物流や、モーダルシフトなどに取り組んでいます。

2014年度は輸送活動によるさらなるCO<sub>2</sub>削減を目指して、船舶によるモーダルシフトを実施しました。一般的に貨物輸送において、同重量の貨物を同距離運ぶのに排出されるCO<sub>2</sub>の量は、船舶がトラックの4分の1となっており、船舶は元々トラックよりも環境負荷が少なく、また、大気汚染物質の排出も少ないとされています。

具体的には2014年10月から、当社としては初めてトラックから一部の部材について船舶によるモーダルシフトを実現しました。軒天部材を対象として、徳島港から東京港を船舶輸送に切り替えています。これにより年間CO<sub>2</sub>排出量が658tから275tに減少しました(58.1%削減、軒天部材のみ)。またこの取り組みによって、国交省のエコシップ優良事業者<sup>\*4</sup>の認定を受けました。

<sup>\*4</sup> エコシップ優良事業者:国土交通省が地球環境にやさしい海上貨物輸送を一定以上利用している荷主、物流事業者に対して、「エコシップマーク」の使用の認定を行う。

#### 船舶によるモーダルシフト・輸送ルート





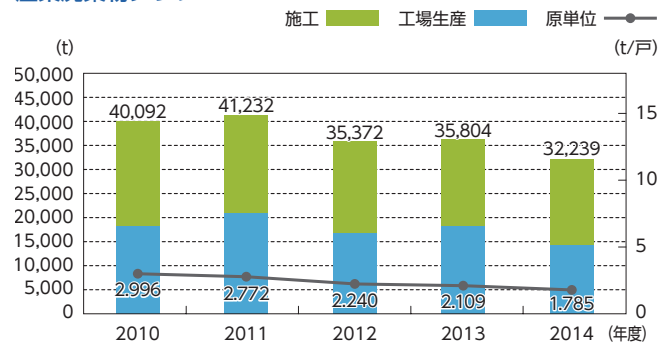
# 循環型社会へ向けて

旭化成ホームズは、事業活動に伴って発生する廃棄物の削減とリサイクルを積極的に推進しています。また、施工現場では廃棄物削減のための独自の取り組み「AHS1(アースワン)<sup>\*1</sup>プロジェクト」を導入するなど、循環型社会に向けた活動を展開しています。

## 事業活動における産業廃棄物削減の取り組み

産業廃棄物削減については、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の観点から総合的に取り組んでいます。最も環境負荷低減に寄与できるのは、リデュース(発生抑制)と考えています。2014年度の工場及び新築施工での発生量は、総量で10%減、原単位で15%減とともに改善できました。これは後述の工場及び施工部門における地道な取り組みの結果です。全社の合言葉は、引き続き「ムダなものを入れない!」、そして排出時には「やむを得ず出たものをリユース・リサイクル」という意識を常に持ち続けることです。廃棄物のスリム化に向け、これからも取り組んでいきます。

### 産業廃棄物グラフ



## 工場における取り組み

### ▶ ゼロエミッションの達成(旭化成住工)

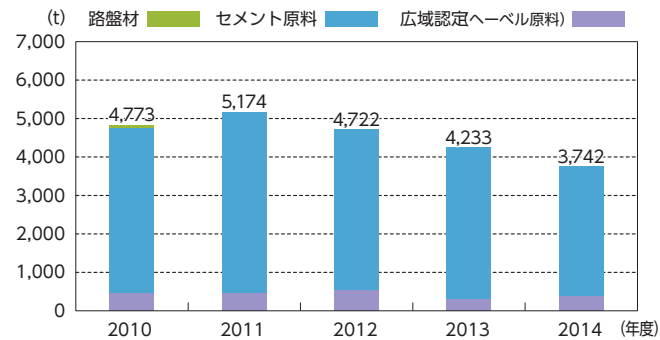
旭化成住工では、2003年度には最終埋立処分量を0にするゼロエミッションを達成・継続しています。

2014年度は活動継続の結果、総量で前年度比約3%、原単位(売上高比)でも前年度比約8%減少しています。

### ▶ 「ヘーベルパネル廃材」の広域リサイクルシステム(旭化成建材)

旭化成建材は、1997年に広域再生利用指定、2004年に広域認定を受け、建設現場の軽量気泡コンクリートパネル「ヘーベル」の廃材を穂積工場、岩国工場、境工場でヘーベルパネルの原料にリサイクルし、使用しています。また、関東地区では、他の企業と連携したリサイクルシステムを確立し、現場から回収されたヘーベルパネル廃材をセメント原料としてリサイクルしています。

## ヘーベルパネルリサイクル量の推移(廃材発生量の推移)



## 施工部門における産業廃棄物削減への取り組み

当社施工部門では3R(リデュース・リユース・リサイクル)の観点から循環型社会の形成へ向けた2つの活動を行っています。施工現場ではリデュース(発生抑制)・リユース(再利用)に重点を置いた、資材の「適量搬入」の活動を、資源循環センターではやむを得ず排出される廃棄物のリサイクルに重点を置いた「徹底分別」の活動をそれぞれ行っています。これらの活動は2011年度から「AHS1(アースワン)<sup>\*1</sup>プロジェクト」として全社を挙げて実施しています。

資材の「適量搬入」については、現場に予備の部材を納入しない取り組みです。施工部門及び施工会社にも取り組みを徹底すると共に、現場ごとに「どの工程で(発生分類)」「何が(品目)」「どのくらい(重量)」という区分を設けた資源データを納入日翌日に施工部門へフィードバックし、常にムダを省くという意欲を発生抑制につなげています。

このプロジェクトの開始前1棟当たり2,400kgあった廃棄物が1,760kgへと640kgの削減となり成果の継続は確認できました。

### 現場から排出された廃棄物の重量推移



<sup>\*1</sup> AHS1:Asahikasei Haikibutsu Sakugen 1t (トン)の略

# 自然共生社会へ向けて

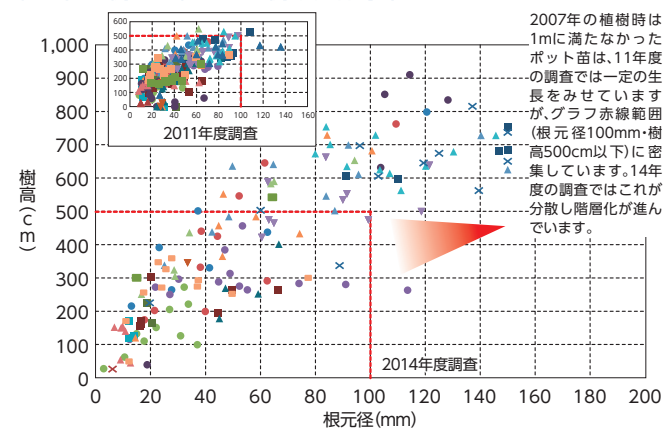
旭化成ホームズは、自然再生、近隣との共生を目指した森づくりや生物多様性に配慮した木材調達、化学物質の適正管理などを通して、自然を大切にす社会の実現に向けた取り組みを進めています。

## 「あさひ・いのちの森」

「あさひ・いのちの森」は2007年に静岡県富士市に住宅総合技術研究所を開設した際、その環境活動ゾーンとして、富士市沿岸部の原風景再生を目指して造成した約1万㎡の緑地です。そしてその中で、地域の環境保全や地元の方々との交流を企業としての大切なテーマの一つと捉え、様々な活動を展開しています。

その活動の基本が、毎年行っている植生モニタリング調査です。森の生長の記録と健全な自然再生を誘導するための順応的管理に向けて、計画段階からご指導をいただいている(公財)IGES国際生態学センター村上雄秀博士により昨年も全域の植生調査を行い、個々の樹木の生長のみならず、低木から高木までの階層構造を持つ森として、豊かに生長していることが確認できました。

### 根元径と樹高を軸とした樹木個体分布グラフ



## Voice

### 「あさひ・いのちの森」の価値と今後への期待

公益財団法人  
IGES国際生態学センター

### 村上雄秀 博士



日本の文化や自然・風土を母体として発展してきた日本の企業は、その原点である日本の生態系や生物多様性保全の有力な担い手だと思います。企業宣伝のためだけの緑地ではなく、地域に密着した、地域本来の生態系を再生することが、企業のCSRの一環として重要で、「あさひ・いのちの森」はまさにそれを体現したものです。森づくりで得た知見を実業にも展開されることを期待しています。

一方で森づくりで得た知見を実業に展開することにも取り組み始めています。私たちは、森づくりを通して、たとえ人工的につくられたものであっても、適切な環境を整え管理を継続することで豊かな緑と多様な生き物を育むことができることを学びました。私たちが実業で目指すものは、都市部を中心にしたエリアでの快適な住まいの提供であり、その中で自然と親しむ緑を重要な要素と位置づけ、さらにその緑を軸に暮らしを通して都市の生物多様性保全にも貢献していきたいと考えています。私たちはこの取り組みを私たちが提供する「都市住宅の庭」に実現していく活動を継続していきます。

## 木材調達における生物多様性の取り組み

ヘーベルハウスでは木質系住宅と比べて木材使用量は多くないものの、下地材や内装材などで年間約4万㎡の木材や木製品を使用していることから、木材の責任ある調達に取り組んでいます。2014年度は、木材認証材(認証過程にあるものを含む)の比率を99%まで向上させました。2015年度以降もこのレベルを維持していきます。

### 木材調達方針 目標と計画

目標	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度以降
STEP1	100%達成	→継続	→継続	継続
STEP2	100%達成	→継続	→継続	
STEP3	順次向上	順次向上	99%達成	

STEP1:森林供給源の特定 STEP2:伐採権の確認  
STEP3:認証材の使用(認証過程材を含む)

## 化学物質の自主基準値以下の運用

化学物質については、旭化成住工で使用使用するトルエンは7,600kg/年と前年度比約3割の削減に留まりましたが、キシレンは2013年12月に塗装乾燥バーナー燃料の灯油を都市ガスに変更したことにより、1,400kg/年と前年度比8割以上の大幅な削減ができました。旭化成建材ではPRTR<sup>\*1</sup>物質で用量の多いものはフェノール、ホルムアルデヒドの取り扱いがありますが、排ガス処理設備により大気への排出を防止しています。今後も該当法令に従い適正に管理するとともに、より安全性の高い物質への代替検討を進めていきます。

<sup>\*1</sup> PRTR:事業所から大気、水、土壌への化学物質の排出量、事業所外への移動量を把握、国に届け出る制度。



# 社会との価値共創へ向けて

旭化成ホームズは、企業と社会が共に価値を創造する「共創」を環境方針の重要キーワードに掲げ、社会の皆様とともに、事業を通じて未来世代へ貢献する活動を展開しています。

## 家庭の省エネルギー意識向上を目指す「EcoゾウさんClub」の活動

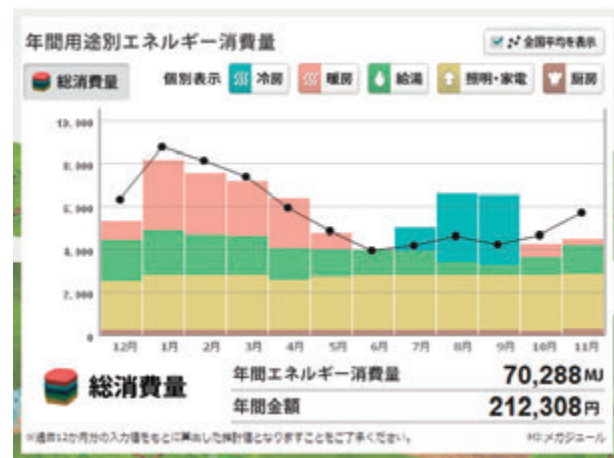
当社は長寿な住宅の開発や、自然を取り込んだ暮らしの提案を行うと共に、家族が楽しみながら省エネルギーに取り組む暮らしの支援活動として「EcoゾウさんClub」を組織し運営しています。

2002年に開始されたこの活動は10年以上を経過し、会員数は4千家族を超え、多くの皆様にご好評いただいています。当社が開発したこのシステムでは、会員の皆様がウェブサイトにて毎月簡単な入力作業をするだけで、電気、ガス、水道、ガソリン、灯油の使用量やゴミ排出量の推移を「見える化」することができます。

さらにこのシステムは省エネ診断ができるほか、電気、ガス、灯油使用量を冷暖房や給湯などの用途別に推計して用途別のグラフを表示することもできます。そして全会員を対象とする省エネランキングが表示されるなど、家族が楽しみながら省エネモチベーションを高めるための工夫がされています。また2009年より会員の声を集めたEcoゾウさん通信を毎月発行し、会員相互の情報交換の場となっています。2014年7月には活動開始から10年間を総括し、EcoゾウさんClubの利用状況、エネルギー消費量の削減、家庭のエネルギー消費行動についてプレスリリースをいたしました。

へーベルハウスにお住まいの方々向けに2011年より毎年恒例となっている「夏の省エネトライアル2014」も実施、省エネルギー意識啓発に努めました。その結果、トライアル参加者は対前年7月～9月に比べて7～15%のCO<sub>2</sub>削減、会員全体ではトライアル開始以前の2010年と比較して25%のCO<sub>2</sub>削減の効果（電気、ガス、水道）が確認できています。

EcoゾウさんClubホームページ  
<http://www.ecofootprint.jp/>



## 「地球教室」「出張授業」など 子供向け環境意識啓発活動の継続

当社では、将来を担う子供たちの環境への意識を高めるために、様々な意識啓発活動を行っています。

2014年9月21日に有楽町朝日ホールで行われた「かんきょう一日学校」では、くらしノベーション研究所の研究員が講師を務めました。これは朝日新聞社が実施している小学生向け環境教育プロジェクト「地球教室」に旭化成グループが2008年度から協賛しているものです。

また、くらしノベーション研究所では首都圏の小中学校などを対象に環境についての出張授業を継続実施しています。2014年度は11月20日に横浜市立元石川小学校、11月25日に練馬区立橋戸小学校で実施しました。さらに、神奈川県環境農政局環境部環境計画課からの要請で2015年2月10日に相模原市立鹿島台小学校でも出張授業を実施しました。毎年200名前後の生徒さんに参加していただいております。2014年度は192名の生徒さん（出張授業3校分）が参加されました。

この他、2012年から協賛しているエコツェリア協会「エコキッズ探検隊」では、2014年度も子供たち30名と一緒に、環境に配慮した住まい方についての実験や未来のエコハウス工作などに取り組みました。



かんきょう一日学校の様子



出張授業の様子

## 住宅総合技術研究所内に移築した「エネマネハウス2014」にて先進技術を実証中

昨年の本報告書で技術協力をご報告した早稲田大学のエネマネハウス「Nobi-Nobiハウス」を、2014年8月、富士市の住宅総合技術研究所に移築しました。エネマネハウスは2030年のアジアの住まいを想定しエネルギーゼロの提案を競うもので、早稲田大学を含む5大学が冬季のエネルギー使用量と室内環境で優劣を競ったものです。今回富士市に移築した目的は、年間を通じた創エネルギーと使用エネルギーのバランスを確認することです。設備の組み合わせやHEMS\*1による調整装置の制御からどのように省エネ最適化ができるか、このデータが将来、住宅のゼロエネルギー化の道筋のヒントになることが期待されます。

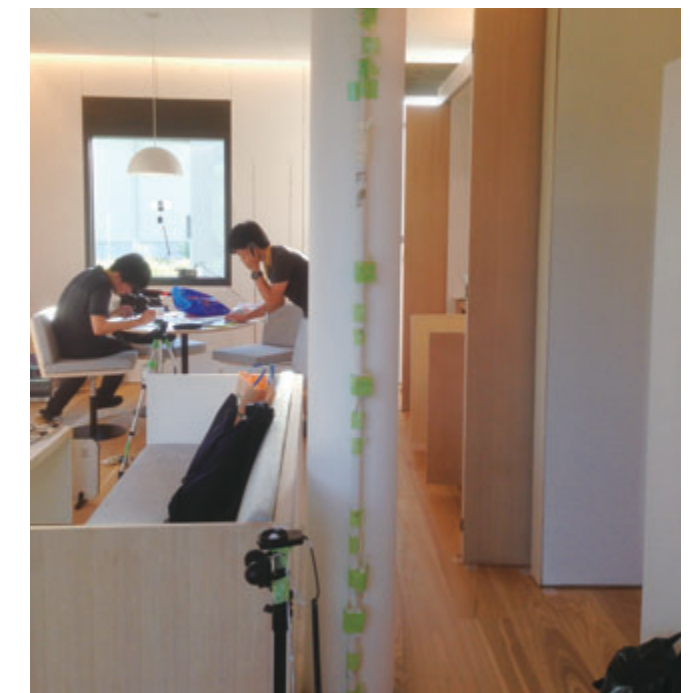
エネマネハウスでは、室内側の壁表面にへーベル版を使用し、その外側をネオマフォームで断熱しました。室内に露出したへーベル版の熱容量が室温の安定に寄与する状況の確認も興味の対象です。夏季から冬季にかけての実測結果から、エアコン1台で十分冷暖房できる高い断熱性能、ALCパネルの蓄熱性能の効果、住宅内における自然換気窓の有効性、HEMS関連機器の待機電力

の削減が省エネルギー化に向けての将来の課題である、など多くの知見が得られました。

この建物を利用した検証は、今年度も新たな視点で継続中です。



住宅総合技術研究所に移築されたエネマネハウス



ハウス内での実測実験の様子

## Voice

### エネマネハウスの継続的実測調査の意義

早稲田大学 建築学科

田辺 新一 教授  
 (Nobi-Nobiハウスご監修)



低炭素社会へ向けて住宅のゼロ・エネルギー化は喫緊の課題になっています。しかしながら、我慢の省エネでは本末転倒になります。今回の実験ではALCを利用して高い居住性能を確保しながらゼロを達成する住宅を実証しています。様々な技術的問題を解決しながら実際の住宅に応用できるような有意義なデータが得られています。

\*1 HEMS: Home Energy Management System (ホーム エネルギー マネジメント システム)の略。家庭で使うエネルギーを節約するための管理システム。



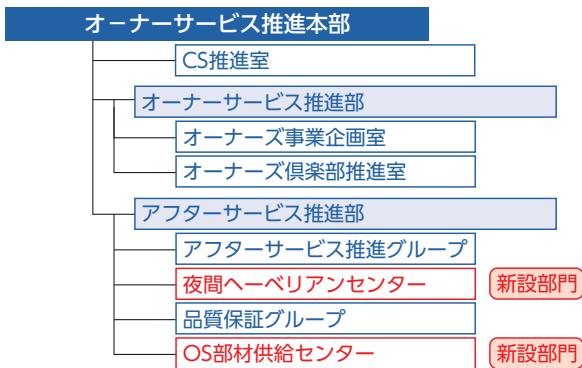
# お客様のために

2014年度、お客様に生涯安心いただける「住まい」と「暮らし」をご提供できるよう組織体制を変更しました。よりお客様一人ひとりへのサービス向上を目指し、お客様のライフスタイルの変化に対応できるよう様々な生活支援サービスを展開します。

## お客様満足向上のための新たな体制

2015年1月に、ヘーベリアンセンターの受付終了後から夜間22時までお客様からのお電話に対応する「夜間ヘーベリアンセンター」を開設しました。これにより夜間22時まで社内対応が可能な体制となりました。また、2015年5月にオーナーサービス部材供給センター(OSBC)を開設し、長期にわたる機能部品と通信販売商品の保管管理及び出荷配送を開始しました。

### 2015年度 オーナーサービス推進本部 体制表



### ▶ 夜間ヘーベリアンセンターの開設

お客様の声をより多く聴き、より早い対応をすることを目的に2015年1月に夜間ヘーベリアンセンターを開設しました。従来、受付時間外でありながらコールが多い時間帯(17:30~22:00)は、外部パートナーへ対応を依頼していましたが、今後は専門的な知識を持ち、ヘーベルハウスを良く理解している社員が対応することでお困りごとの早期解消を目指します。1月~5月の実績として、月間約1,800件近いお電話(アドバイス・お困りごと相談・リフォーム相談など)に対応しました。夜間受付を内製化したことで約93%の受付をヘーベリアンセンターのスタッフが対応することが可能となり、また、電話を多くいただく朝の時間帯の混雑も緩和され、全国の応答率が95%に向上しました。今後も一人でも多くのお客様に快適な生活をお届けできるサポーターとして、日々取り組んでいきます。

### ▶ OS部材供給センター

2015年5月にOS部材供給センターを開設しました。ヘーベルハウスの安全や防犯に係る長期保管が必要な部材、リフォームやメンテナンスにおける専用部材、日常使う消耗部材、通信販売の

商材の保管管理、及び出荷配送業務を行っています。従来は、新築部門の物流部門の部署で行ってきた業務ですが、これをオーナーサービス部門に移管し、配送工期短縮を始めとする業務内容を充実させることで、お客様へより質の高いサービスの提供が可能となりました。



様々な部材や消耗品をストックするOS部材供給センター

## 生活支援サービスの拡大

社会全体が高齢化することで生じる様々な問題は、当然ヘーベリアン(ヘーベルハウスにお住まいの方々)の皆様にも当てはまります。体力の低下、介護等高齢化の進展によるお困りごとの増加、またライフスタイルの多様化などにより、生活支援サービスへのニーズは年々高まっています。

当社では2013年旭化成オーナーズ倶楽部発足と同時に、「暮らしの便利屋さん」という名称で、生活支援サービスの提供を開始しました。サービスのラインナップは、庭の手入れ、家事代行、ハウスクリーニング、整理収納、出張ペットケア、引越し仮住まいサポート、パソコン訪問サポート、介護サービスなど多岐にわたり、種類や実施エリアを年々増やしてきています。



## お客様の声

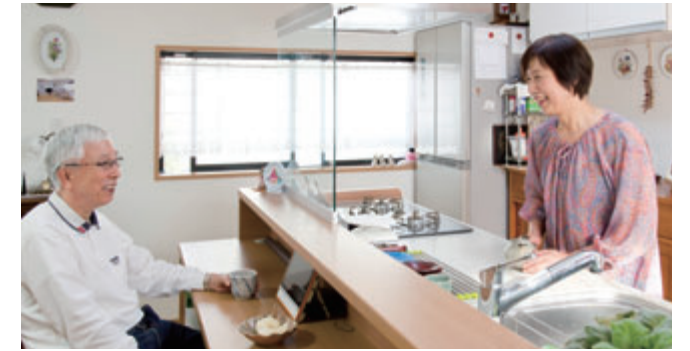
### ◆ 庭木の手入れサービスご利用のお客様

庭木の剪定をお願いしたのですが、剪定のコツを聞いたら丁寧に教えてくれた。さすがプロという良い形に整えてくれた。やはりヘーベルさん経由だと安心で質の良いサービスが受けられると思いました。

### ◆ ペットケアサービスご利用のお客様

ヘーベリアンを見てペットシッターの存在を知り、家のカギを知らない方に預ける不安を感じながらも旭化成の紹介ならば大丈夫かなとお願いしました。

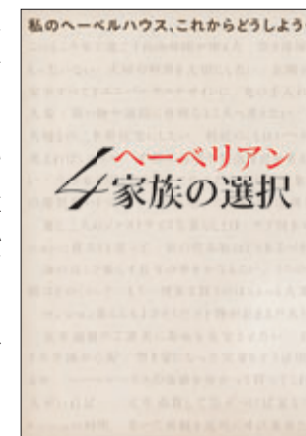
ペットの様子を写真で知らせてくれたり、猫が見つからないときは再度様子を見に来て時間の請求もなくとても良心的に世話をしてくれました。機会があったらぜひまた利用させていただきたいです。



住まい方の選択セミナーでご講演いただいたR様ご夫妻。ご家族構成の変化に伴い、空いてしまった2階の2部屋を一体化のご提案をさせていただきます。「しっかりコンセプトを持ってリフォームすれば、確実に住みやすくなりますね。」とご満足いただけました。

## 住まい方セカンドステージへのお手伝い

新築当初4人家族で住んでいた一戸建てに、今は夫婦2人だけで住み広い家を持て余しているご家庭も多くあります。これから先の自分たちにふさわしい住まいは、どのようなものだろうか? 2人で住みやすい間取りへのリフォーム、マンションへの住替え、副収入が期待できる賃貸併用住宅への建替えなど、様々なアイデアは浮かんでくるものの、計画の進め方がわからず、判断材料も揃わず、なんとなくそのままにしている。当社の調査でこのようなオーナー様が多いことがわかりました。



このような皆様のために、先輩ヘーベリアンの実体験をご紹介します。カタログ「ヘーベリアン 4家族の選択」を作成し、今後のご検討の参考にさせていただいています。実際に今の自分たちが暮らしやすい間取りに大規模リフォームを行った方、東京のヘーベルハウスを売却し田舎暮らしを始めた方など具体的な事例をわかりやすく解説しています。

さらに、リフォームや住替えをされた経験者に体験談をお話いただく「住まい方の選択セミナー」も開催し、多くの方に参加していただいています。体験談を参考にいただきながら、当社



住まい方の選択セミナー

スタッフがより良い住まいのセカンドステージへの移行のお手伝いをさせていただきます。

## ロングライフ保証システム

お客様と共に家の資産価値を守り続けるために、ロングライフ保証システムが生まれました。最長60年間の保証(構造耐力上主要な部分、雨水の浸入を防止する部分)と、10年間保証(主要な住宅設備機器)を合わせ、長期耐用住宅を最適なかたちで守ります。主な住宅設備機器のメーカー保証は2年間ですが、ロングライフ保証システムの場合、太陽光発電システムや空調設備、キッチン・浴室設備など、暮らしに欠かせない室内外の住宅設備が10年保証となります。良い商品を長く快適に、安心してご使用いただけるヘーベルハウス独自のサービスです。

また、既入居のお客様向けには、10年目までの住宅設備の故障に備える保険「ヘーベルハウス設備故障保険」も新登場し、幅広いお客様の要望に応えます。



## アフターサービス3年連続No.1

日経新聞社が主催している「日経ビジネス新築戸建住宅部門アフターサービスランキング」において2012年~2014年まで3年連続で一位を獲得しました。

企業名	2012年	2013年	2014年
旭化成ホームズ	68.0	62.5	60.6
A社	43.4	57.8	41.7
B社	53.0	54.6	54.3
C社	50.8	53.6	51.8
D社	41.8	50.0	41.7
E社	47.2	44.8	45.7
F社	42.0	32.3	39.6
G社	31.6	29.8	51.0

特に当社の強みである、お申し出事項の対応スピードと対応の適切さで高い評価をいただいています。

お客様からのお電話をまずヘーベリアンセンターがお受けし、お客様のお宅へ訪問するホームサービス担当や協力店、メーカーメンテナンスと連携し、これらのチームワークによりスピーディーで質の高いサービスの提供を実現しています。



# より良い品質のために

旭化成ホームズグループでは、お客様に安心して快適にお住まいいただくために、主要部材の工場と施工現場の両方で、品質管理を徹底しています。

## 工場における品質管理の取り組み

### 旭化成住工の取り組み

旭化成住工はヘーベルハウスの構造体である柱、梁、制震フレームや屋根パネル、防水・下地パネル、開口パネル、さや管などの部材加工を行っています。ロングライフ住宅を支え、お客様に信頼いただける製品をご提供するために、様々な品質管理の取り組みを実施しています。特に、6大重要品質に関しては、旭化成ホームズの生産技術部と一体となり工程監査を継続実施しています。

#### ISO品質マネジメントシステムによる品質管理活動

旭化成住工では、品質マネジメントシステムによる品質管理を実施しています。品質に関する要求事項の遵守、信頼性試験・検査の実施、設備の保全活動、自主標準作業診断の定期実施など、様々な活動によって品質管理に努めています。

#### 量産立ち上げ時の取り組み

新製品、設計変更、5M\*1変更などで量産体制やラインの変更がある場合、品質に影響を及ぼす可能性が高くなります。そのため、特に量産立ち上げ時には、生産準備段階から量産試作品の評価と量産開始の承認のプロセスを明確にしています。さらに、量産開始後の監視測定と有効性評価までを含め一連の品質保証活動を組織的かつ計画的に実施しています。

#### 教育訓練

全社員及び品質に影響する業務に従事する社員への技能や知識を明確にし、計画的に教育を実施しています。また、品質に重要な

影響を及ぼす工程については、作業者認定制度を設け従事する社員の能力を担保すると共に、技能者の育成や能力向上を行っています。

### 旭化成建材の取り組み

旭化成建材は現在、茨城県の境工場とネオマフォーム工場、岐阜県の穂積工場、山口県の岩国工場の4工場体制で旭化成ホームズ向けの外壁材・屋根・床版(ヘーベル)及び断熱材(ネオマフォーム)の生産を行っています。私たちはヘーベルハウスの信頼と満足を高めるために、品質方針を以下のように定めています。

- 信頼される品質とたゆまぬ技術開発で、お客様に満足していただける製品を提供します。
- 社員は、それぞれの立場・役割で製品品質の継続的な改善に努めます。
- お客様との取り決め事項、法的な規制及び旭化成建材の品質に関する規格・ルールを守ります。

#### 2014年度の実績 報告

毎月、品質管理月報を旭化成ホームズに送付し、品質管理報告を行っています。特に境工場、穂積工場は定期的にホームズと建材で品質会議を開催し、品質管理項目の結果の評価と対策を実施するなどPDCAを回しています。2014年度の活動成果として、コーナ版の外観品質の向上をテーマとして活動しました。委託加工会社、物流会社及び建材が一体となって活動し、ホームズからも評価をいただきました。

#### 工場の品質管理の事例

ヘーベルは圧縮強度の厳しい規定があります。これに対応するため、生産した製品のロットごとに圧縮強度の測定を実施しています。この他にもパネル曲げ試験評価など、評価項目は数十種類におよびます。



ヘーベルの圧縮強度測定の様子

\*1 5M:品質管理を考える上で必須の5大要素  
①人 (Man) ②材料 (Material) ③作業方法 (Methods)  
④機械設備 (Machines) ⑤測定方法 (Measurement)。

## Voice

### クレームゼロの継続を目指します

旭化成建材  
岩国工場 製造課課付

#### 小林 誠二



岩国工場は屋根床版生産を行っています。外観品質や製品性能の維持向上を目指し活動を行っております。ホームズの品質担当の高い評価も頂いております。これも厳しい製品検査ニーズに対し、現場が高い意識を持って取り組み続け、製品検査のレベルが上がった結果だと思えます。今後もこれに満足することなく、一人ひとりが責任を持った行動をとり続けお客様により良い製品をお届けする為にクレームゼロを継続したいと思えます。

## 施工現場における品質管理の取り組み

### 「一発良品」の取り組み

施工現場において、高い品質を安定して維持させていくためには、現場での検査体制の確立等は非常に重要ですが、当社では、工程内で品質を作り込む＝「一発良品」、という考え方を基本的に品質の向上に努めています。

各工程における作業手順や品質管理基準を本社にて明確に定め、「作業標準書」等の施工ツールを発行し、管理者及び作業者の教育を実施しています。

本社発行の施工ツール類は100種類以上に及び、各工程、職種別に、作業手順、施工方法や作業に関する注意点(品質・安全等)等が詳細に記されています。特に基礎・躯体工事、防水工事においては、作業者に対して「技能者認定制度」を設けており、「作業標準書」で規定した手順や管理内容を習得した作業者の認定を行うことで、さらなる品質の安定、向上を図っています。

工事管理においても、管理者が「作業標準書」等の施工ツールを用いることで、作業者に対する技能教育や工程内での品質管理が実施でき、施工の良し悪しを明確に判断することができます。また物流においても、この「一発良品」の取り組みを加速させるため、「ジャスト・イン・タイム」での納材を行っています。ネット上で、工程に合わせて必要な材料が現場に届くという仕組みを構築させており、すべての現場で安定した品質を確保しています。

各工程での仕組みづくりは現場での教育の他、これらの様々な取り組みで、作業標準を遵守した高い品質のヘーベルハウスをお客様に供給し続けていきます。

### 検査体制の確立

お客様の快適な暮らしを実現させるためには、工程ごとの確認、品質検査は非常に重要です。工程内で品質の作り込みを行ったヘーベルハウスを、工程ごとにしっかりと検査し、旭化成ホームズとして責任を持ってお客様にお引き渡ししています。

現場での品質検査は、作業手順と同様に、本社にて検査における手順と検査内容を明確に規定し、漏れの無い検査が確実に行えるように、教育を実施しています。特に構造上最も重要な、基礎、躯体工事の品質と、完成品質の検査に関しては、管理者に対して「検査員制度」を設け、検査員の資格が取得できなければ、検査することができないルールとしており、その取得には厳しい基準を設けています。

また、施工現場における品質管理の取り組みについては、独自に開発、規定したロングライフ住宅品質管理システム(LLQCS・ロングライフクオリティコントロールシステム)に基づいて実施しており、「技能者認定制度」や「検査員制度」はその大きな要となっています。品質管理のための担当教育や現場での技能教育等はLLQCSで規定されており、LLQCSを実践することで、高いレベルの技能者や管理者を育てると共に、高い品質のヘーベルハウスを安定して供給し続けることができます。

## Voice

### 職方さんとの「品質対話」を大切にしています

埼玉・北関東営業本部  
埼玉支店工事課

#### 主任施工技術士 高橋 善行



ヘーベルハウスの基本性能の高さを長く保つ為に、私達はLLQCSという品質管理システムによって、施工現場の管理を行っています。基本的には工程の中で品質を作り込んでいきますが、お客様の快適な暮らしを実現する為には仕上げ検査が特に重要になってきます。そこでは美観の検査になりがちですが、機能面や安全面の品質検査を重点的に行い、施工プロセスや仕様に問題がないかも確認をしています。問題があった場合には、何故発生したのか原因を掘り下げて確認し、情報の水平展開とフィードバック、再発防止を徹底しています。その中でポイントとなるのは現場の最前線である職方さんとの「品質対話」です。現場の声を吸い上げ、カイゼン活動を行っていく事が、品質向上の一番の近道だと思います。

## Voice

### 社員一丸となり完全品質を目指します

旭化成住工  
管理部 品質管理課

#### 中村 彰



私たち、旭化成住工社員一丸となって「お客様の幸せな住まいの実現」「完全品質」を目指し、ISOマネジメントシステムをベースに、「だから大丈夫といえる物作り」に日々取り組んでいます。また、魅力的な品質を目指し各営業本部との交流会及び工事店様とのヒアリングで現場の声を聴き、施工品質の向上につながる改善活動を展開しています。

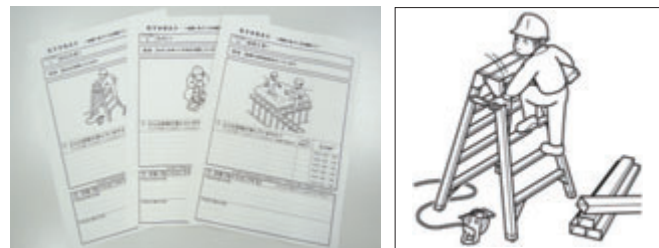


# 労働安全衛生の取り組み

旭化成ホームズグループでは「業界最高水準の「安全な現場と人」をつくりあげ、ゼロ災を達成する」ことを目標とし、特に重大災害につながる墜転落災害の撲滅に取り組んでいます。また、健康面では健康診断を中心に、社員の心身の健康増進活動を推進しています。

## 「安全な現場と人」を上げるための取り組み

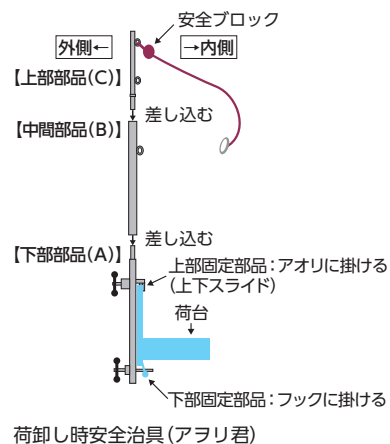
現場における安全確保のために「現場づくり」と「人づくり」を中心とした安全活動に取り組んでいます。「現場づくり」では、例えば危険な作業の一つである足場の組立てにおいて、作業者の安全が常に確保できるよう「手すり先行工法」を導入中で、墜転落災害の撲滅に努めています。「人づくり」では、現場の安全確保のキーマンとなる職長を対象に「職長教育」を継続実施し、指導力の向上を図っています。また職方さん全員の「危険に気づく力を養う」ことを目的に、イラストによる危険予知ツール「KYテキスト」を工事店会議や現場等で活用しています。



KYテキスト

## 高所での現場荷卸し作業における安全への取り組み

現場荷卸し作業における安全確保の為、安全治具を開発し、高所作業時(地上から2m以上での作業)には必ず設置して安全対策を行っています。この治具は、トラックのアオリ部分に簡易的に取り付けることができ、かつ上部に安全ブロックを設置しているので、体に着けた安全帯と合わせて落下時防止に役に立ちます。



荷卸し時安全治具(アオリ君)

## 社員の健康

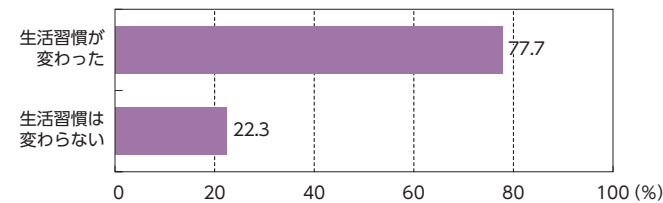
### 健康増進イベントの実施

当社は平均年齢40歳弱と比較的若い会社ですが、業務上乗用車を多用し運動習慣が少ない社員が多いこともあり、平均年齢の上昇とともに生活習慣病にかかわる所見率も微増傾向にあります。そのため、運動習慣をつけて健康増進に楽しく取り組んでもらう目的で2014年9月～11月の3ヶ月間、「チャレンジウォーキング」という健康増進イベントを実施しました。このイベントは、参加者へ万歩計を配布し、3ヶ月間の歩数を競うものです。全国から150チーム614名の多数の参加がありました。全参加者平均歩数/日: 7,964歩/日、個人の最高は39,731歩/日という「つわもの」もあり、楽しく健康増進に取り組みました。大変好評であったため、今後も実施をしていく予定です。



チャレンジウォーキング「痩せるつもりはあるんです」チームのメンバー

### 運動習慣がない人の終了後の生活習慣の変化



### ストレスチェックの実施

当社では、ストレスチェックが法制化をされる以前の2011年より、毎年1回全社員を対象としたストレスチェックを実施しています。2014年度の結果は、組織全体としては仕事の量、質に関する負荷が大きい一方で、働きがい、仕事や生活の満足度、上司同僚からのサポートなどの緩衝要因が大幅にリスクを下げ、世の中の平均より15%程度健康リスクが低いと判定されています。部署別では、高リスク部署には数値の見方、意味などを人事部から部署長に説明をした上で対策を実施しています。コミュニケーションの不足が懸念される高リスク部署には「主体性と協力を大切に、自ら解決していく組織」を目指すオフサイトミーティングという研修を実施するなどの改善に取り組んでいます。

# お取引先とのかかわり

旭化成ホームズグループでは、取引先の皆様とのネットワークやコミュニケーション活動を充実させることにより、信頼ある関係を構築していきます。

## 着工の平準化

住宅建設は多くのメーカーや業者がかかわるために、着工数が一時期に偏ることで多くの関係者に大きな負荷をかけてしまいます。当社では部材供給メーカーや施工協力店などのお取引先の生産・施工の無理・無駄を削減するために、計画的な着工(着工の平準化)を推進しています。安定した生産計画や施工計画を組めることで、お取引先は余分な設備投資や過剰な人員確保の必要がなくなり、同様に仕事に空きができるのを防げます。また、平準的な業務を継続することができることから、作業品質の確保にもつながっています。

## 職方学校

近年は施工会社の現場作業者の高齢化や、景気の回復による若年層の人材不足から作業者の不足が進んでいます。そのため、新規採用者の少しでも早い技能向上と現場での活躍が期待されています。そのため、グループ会社の旭化成住宅建設(株)において新規採用社員(木工事)の技術習得・向上を目的として、2015年4月に現場作業者の研修施設を開設しました。作業マニュアルを利用し、担当する予定の作業内容をひとつひとつ実践しながら学んでいけるよう、本施設は本物のヘーベルハウスを再現した施設と

なっています。新規採用の方が早く一人前になるよう、この研修施設を利用して、作業者の技能レベルの向上や、知識向上を進めていく予定です。



作業研修の様子

## 取引先との品質向上活動

### ISO9001に基づいた品質管理

当社では、部材供給をお願いしている購買先のうち、重点管理購買先に対しISO9001に基づく製品品質確認や毎月の不具合情報監視、不適合是正確認を実施し、購買先とともに品質向上、品質安定継続に向けた取り組み等を進めています。

#### 1. 重点管理購買先の設定

二百数十社に及ぶ取引先のうち、構造や、人身災害、法令遵守、拡大被害にかかわる重要な購買製品、購買先について、重点管理購買先として特に品質管理に重点を置いています。

#### 2. 不具合情報の監視

重点管理購買製品・購買先については、継続的な不具合情報の監視を行っています。

#### 3. 不適合是正・予防処置の管理

重大、重点管理不適合が発生した場合は、再発防止のための徹底した原因追究、是正処置、同様な不具合を未然に防止するための水平展開、さらには管理体制の継続性まで見据えた取引先の管理体制確認を行っています。

#### 4. 品質会議・品質監査

不具合情報の集計、分析を通じ、品質目標の達成状況、品質向上に向けての取引先の取り組みを定期的に確認し、より確実な品質向上活動を進めております。また、取引先製造現場での品質監査にて製品品質や製造プロセスの確認を行い、不具合の未然防止に取り組んでいます。

## Voice

### 研修生の1日も早い技術習得を目指します

旭化成住宅建設株式会社  
技能研修所講師

田中 英文



2015年度17名の研修生配属を受け、いよいよ研修をスタートしました。当技能研修所では施工実習中心に約11ヶ月間のカリキュラムを行い大工技能工の早期戦力化を図ります。また断熱・クロス・電気の施工実習、第二種電気工事士資格取得推進により将来の多能工化を見据えます。上期は繰返し実習による仕様の理解、基本技能習得、品質確保、下期は実現場施工による技能・生産性の向上を目標に安全最優先で取り組みます。そしてもの作りの面白さを感じながら夢と希望を持って大いに活躍できる、そんな研修生を数多く送り出したいと思っています。



# 地域・社会のために

旭化成ホームズは、地域社会の皆様とのコミュニケーションを深め、地域の発展に貢献する企業であり続けます。

## 「あさひ・いのちの森」でホタルまつりを開催

2015年5月28日～5月30日、静岡県富士市の旭化成(株)富士支社内にある『あさひ・いのちの森』で、「第8回旭化成ホタルまつり」を開催しました。

富士支社では、『あさひ・いのちの森』にあるビオトープで育つゲンジホタルの生育を大切に目撃する活動を続けています。毎年、3月～4月にかけて上陸する幼虫の数の確認を行い、羽化の時期を予測しながら、ホタルまつりの日程を決めており、今年も無事、市民の皆様にご鑑賞いただくことができました。

まつりの3日間とも天候に恵まれ、19:30～21:00の開催時間中入場者が途切れることなく、約3,700人の多くの皆様にホタルの飛翔を楽しんでいただくことができました。はじめてホタルを見るといってお子様も多く、暗い森の中での幻想的な光の乱舞に、あちらこちらで歓声があがっていました。



「あさひ・いのちの森」でのホタルまつりの全景



森の中を舞うホタル

## 常葉大学における寄付講座\*1運営

旭化成(株)富士支社は、毎年常葉大学に対し学生向けの講座を持ち、社員が講師を務めています。当社は2013年度に続き、2014年度も照明と建築構造に関する講座を提供しました。

6月17日には80名を超える学生を対象として構造に関する講座を行いました。この講座では、まず、身近に迫る大地震に関する知識や過去の地震の被害状況を、動画等を用いて説明しました。

さらに、地震に対して建築がとってきた対応とその効果の検証や、戸建住宅における地震対策を具体的に学習しました。

6月24日には住まいの快適性と題し、これからの住まいの明かりの講義を行いました。まず、人の目の仕組みや色に関する説明を行い、簡易な分光計で蛍光灯やLED電球の光を見比べる体験をしました。顔に当たる光によって肌や表情の見え方が変わることを認識した後、住宅の照明の設計にとって光源の選択と配置が重要であることを学習しました。

本講座は2014年度からは同大学の単位取得の講座となりました。



社員が講師を務める寄付講座

\*1 寄付講座：民間企業や行政組織などから教育・研究振興のために寄付された資金や人材を活用し、客員を招いて開かれる講座。

## 地元中学生に向けた職場体験学習会

静岡県富士市にある当社の住宅総合技術研究所にて、市内の田子の浦中学校2年生36名(11月13,14日)、大淵中学校3年生30名(11月27日)を招き、「地震に負けない家」、「光(照明)について知る」をテーマに職場体験学習会を開催しました。

「地震に負けない家」では、地面が揺れても倒れない建物にするための、「耐える、いなす、切り離す」の仕組みを学習したあと、ストロークと紙とテープで地震と重さに耐える模型をつくりました。



職場体験学習の風景

さらに、その模型を小型の振動台に乗せ、地震に耐える状況を再現し、模擬解答と実際の建物の動き方の違いを理解しました。続いて、「耐震、制振、免震という構造」技術と地震の発生メカニズムや、地震時の映像による学習を行いました。富士川断層帯という活断層の近くに住む生徒たちには、身近な内容であり、興味深い授業となりました。

「光(照明)について知る」では、色の見え方や明るさの感じ方が周囲の影響を受けることを学びました。一般的な住まいに見られる天井付け照明と、照明器具を見えないよう設置する間接照明との物の見え方や明るさの感じ方の違い、睡眠への影響を体感しました。

## 工場における活動(旭化成住工)

### ▶ 温暖化防止シンポジウムでの活動発表

滋賀工場は2003年から地域ネットワーク活動「一般社団法人 滋賀グリーン購入ネットワーク(略称:滋賀GPN)」に参画、2013年度からは理事及び幹事として活動しています。

2015年2月14日に同志社大学新町キャンパス(京都市)で開催された、特定非営利活動法人気候ネットワーク\*2主催の全国シンポジウム「市民が進める温暖化防止～クライメート・アクション・ナウ!～」の分科会、「持続可能な社会は消費者の自立から～環境教育と消費者教育の接点～」では、滋賀GPNの活動事例の発表を行い、一般市民など約50名の参加がありました。



気候ネットワーク全国シンポジウム分科会

### ▶ 工場敷地周辺のゴミゼロ活動

滋賀工場では毎年5月と10月に「ゴミゼロの日」を設定し、お昼休みと午後の就業時間の一部を利用して、滋賀工場及び厚木製造部の全社員による工場内と工場敷地周辺道路の清掃活動(ごみ拾い)を実施しています。2014年度も5月30日と10月31日に清掃活動を実施しました。また、12月2日に行われた、滋賀県東近江環境事務所主催の環境美化活動ボランティアに社員が参加しました。

### ▶ ヨシでびわ湖を守る活動に参画

琵琶湖岸に生息するヨシ(葦)には水を浄化する力があり、また、湖魚の産卵場所になるなど、琵琶湖の生態系保全に大きく寄与していますが、冬の時期に枯れたヨシを刈り取らないと翌年に元気なヨシが育たないため、毎年、行政や企業、市民団体などがボランティアでヨシ刈りを行っています。

滋賀工場は2009年よりこの活動に参画し、2014年12月6日の東近江市 伊庭内湖(いばないこ・東近江市)及び2015年2月7日と21日の近江八幡市 西の湖で行われたヨシ刈りボランティアに、社員がヨシでびわ湖を守るネットワークのメンバーとしてそれぞれ参加しました。刈り取ったヨシは紙の原料としてコピー用紙や名刺などに加工され、これを全社で使用することで天然資源の循環にも貢献しています。



滋賀工場敷地周辺清掃活動風景



伊庭内湖(いばないこ・東近江市)ヨシ刈りボランティア活動風景

その他、滋賀工場では地域に根付いた様々な社会貢献活動を継続して行っています。

- 滋賀GPNの評価手法研究会が「毎日使うコピー用紙を、使い捨てのダンボール箱ではなく繰り返し使える『通い箱』を使って共同作業所の障がいを持った方が届ける」というコンセプトで開発した「エコラボはーと・しが」に参加。
- 地域ネットワーク「淡海フィランソロピーネット」に参画し、同ネットが企画する「ペットボトルキャップリサイクル活動」に参加。
- 共同作業所の障がいを持った皆さんが季節の草花を植えて、企業などに提供する「HANA-WAプロジェクト」に参加。

\*2 気候ネットワーク：地球温暖化防止のために市民の立場から「提案×発信×行動」するNGO/NPO。1999年11月に特定非営利活動法人として認証された。



# 社員とともに

旭化成ホームズグループは、すべての社員がいきいき働き、能力を発揮するための様々な制度や、能力開発に向けた取り組みの整備を行っています。

## 旭化成ホームズの人財活性

当社の人事部のミッションは「健全で、社員が成長し続ける会社風土を構築する」です。すべての社員が生涯いきいきと働き成長するための、様々な制度や能力開発に向けた取り組みを行っています。社員＝正社員・フルタイムという画一的な考え方から脱却し、多種多様な人財が働きやすい環境を整えていきます。現在、特に重点的に取り組んでいるのは、多様性に向けた取り組みの一環としてシニア社員の活躍推進と、ワークライフバランスの取り組みです。

## 多様性に向けた取り組み

### シニア社員の職場の創出と活躍支援

今後社員の年齢構成の変化(高齢化)が想定されます。さらに、高齢者雇用安定法の改正により、世の中は実質65歳定年に向けて大きく舵を切っています。当社でも50歳以上となる社員の今後の増加が見込まれており、50歳以上の社員の活躍・経営貢献が今以上に重要になってきます。

50歳以上社員数(再雇用含む総合職)

【現状】約900名(25%)うち再雇用者数 約70名

【10年後見込】約1,800名(40%)うち再雇用者数 約400名

そのため、当社では2012年度より、キャリアクリエイト室を新設し、シニア社員の活躍を実現するため、様々なかたちの取り組みを行っています。

#### ①社員の定年後の再雇用へ向けての支援

再雇用アンケートの実施、上司へのヒアリング、キャリア面談など

#### ②今後の職場の創出

グループ内:外部委託業務の内製化などによる職場の創出

グループ外:出向・移籍による新たな職場の創出

※当社から旭化成グループ以外の企業に現在技術系29名、事務系17名が出向・移籍され、それぞれの職場で活躍中です。

#### ③シニア社員に関連する人事制度の整備

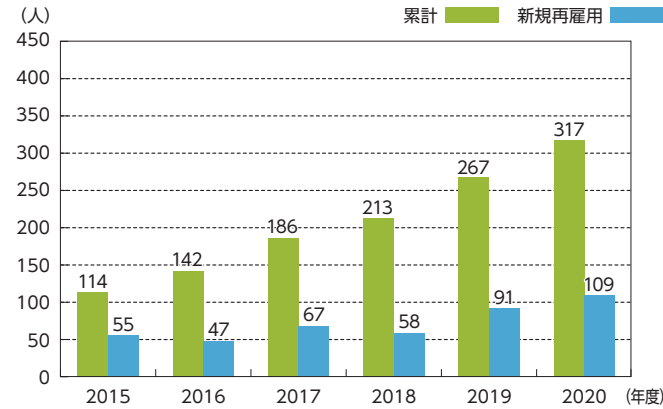
再雇用制度をはじめ、制度を整備・適用

※旭化成グループ統一の制度に加え、営業担当再雇用エージェント制度などホームズ独自の制度も創設

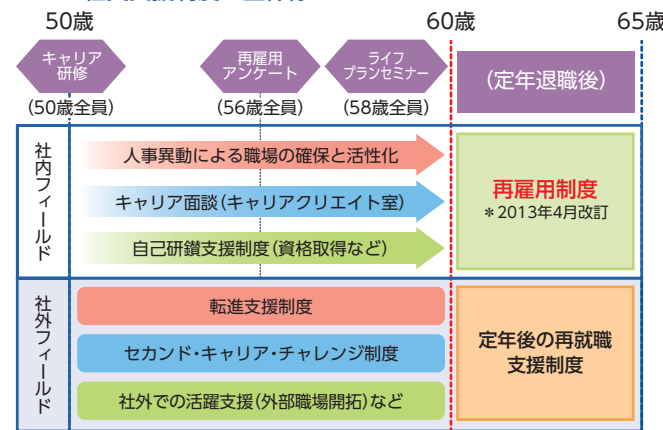
#### ④シニア社員向け研修の企画、実施

50歳キャリア研修(腕まくり研修)の実施

再雇用者数の推移(想定)



シニア社員支援制度の全体像



#### 50歳キャリア研修(腕まくり研修)

当社は社員の50歳以降の活躍へ向けての成長目標を描いてもらうことを目的とし、「50歳キャリア研修(目標設定研修、別称腕まくり研修)」を2013年度より実施しています。

この研修は、主に2つの柱で構成されています。ひとつは50歳以降の働き方を展望し、ありたい姿を描き、目標を設定し、その達成に向けて「腕まくり」をする。もうひとつは将来の生活に備えるため、自身のファイナンシャルプランを立てる上での知識や会社の制度について学ぶということです。

具体的なプログラムは、「充実曲線\*1」による人生の振り返り、目標設定シートの作成や、これからのファイナンシャルプランを考える内容になっています。また、再雇用制度など雇用支援の制度を、事例を交えて情報提供しています。2014年度は113名の50歳到達者が受講し、アンケートでは前向きな意見が寄せられました。

年度	開催回数	受講者数
2013年	4回	87名
2014年	5回	113名
2015年(予定)	5回	129名

#### アンケートより、受講者の声

- ・自分自身を振り返るいい機会となった。
- ・自己成長し続けることを忘れず、転職や定年に備えたい。
- ・退職後の具体的なプランがわかりこれからの仕事人生に前向きに向かっていこうと思った。
- ・会社の制度の手厚さに驚いた。

\*1 充実曲線:自身の過去から現在までの充実度をフリーハンドでグラフ化し、自分の棚卸やモチベーション源の確認に役立てる手法。

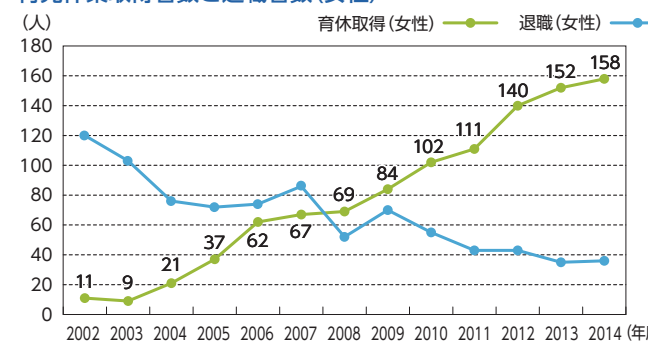
## ワークライフバランスへの取り組み

当社は様々なライフイベントや家族の状況に応じた支援制度を拡充しています。

### 育児・介護支援制度

お客様に暮らし方を提案する当社では、家庭と仕事の両立を積極的に支援し、社員の生活をより充実したものにしていくための取り組みを行っています。育児休業については法律が定めた期間よりも長く、最長でお子さんが3歳到達後の4月1日まで取得することを可能にしています。2014年度の育児休業制度利用者は178名(男性が20名、女性が158名)でした。また、育児のための短時間勤務は、最長でお子さんが小学校6年生まで利用可能です。これらの取り組みにより、子育てをしながら働き続ける女性が増加し、女性の退職者は減少し続けています。2015年4月時点で育児休業から復帰して働く女性は170名となりました。介護休業は通算で1年間の取得が可能です。2014年度の実績は1名でした。今後もこれらの制度が利用しやすい環境を作り、社員の働きやすさに貢献していきます。

育児休業取得者数と退職者数(女性)



### 復職者情報交換会

2007年より育児休業から復帰した社員が多くなったエリアでは、復職者同士の情報交換会を開催し、限られた時間の中での働き方の工夫などを情報交換しています。子育てをしながら働くこ

とは不安も多くありますが、同じ立場の社員と情報交換することで、不安の解消の場ともなっています。

2014年度は、全国で計9回(東京4回、埼玉、千葉、神奈川、名古屋、大阪で各1回)の情報交換会が開催され、約80人が参加しました。

今後は、エリアを超えて交流できる場に拡げていく予定です。

## Voice

旭化成不動産レジデンス(株)  
開発営業本部 総務部 営業推進課

(育児休業取得期間)  
2005年6月~2007年3月  
2012年4月~2013年9月

課長 逆井 温子



周囲の方のご協力・ご理解もありこれまで2回の育児休業を取得させて頂きました。住生活を扱う当社にとって、主婦業・母業の経験は自分の中で大きな糧となり自分の強みを発見するとても良い機会になりました。同じように強みを活かしながら復帰・活躍する女性も多く、周りの方々もそれを応援してくれる風土があると感じています。育児経験がある事をお客様もプラスに受け取ってくれることもあり、育児休業はマイナスではなく、大きく勉強できるチャンスと皆とらえていると思います。

### 社員自らが参加する「子育て社員モニター」

2011年度より、育児休業から復職した社員や、お子さんが生まれた男性社員を対象に「子育て社員モニター」登録制度をスタートしました。これは子育て世代のお客様により喜んでいただける商品提案を目指して、くらしノベーション研究所が主催しているもので、当社のパパモニター、ママモニター合わせて約100名の社員が参加しています。衣食住に関するアンケートやグループディスカッションに参加してもらい、実際に生活の中で感じていることを商品に反映する仕組みです。商品開発担当者と直接ディスカッションすることで、社員自身の商品の提案力アップやモチベーションの向上にも役立っています。



子育て社員モニターグループディスカッションの様子

### 社員の状況に配慮した制度の新設

2015年度より、2つの制度が新設されます。これにより、貴重な人財の流出を防ぎ、長く当社で働いていただく土台のひとつとな



## 社員とともに

ることを期待しています。

### ■ 勤務地配慮制度

配偶者の転勤など、やむを得ない事情により、通勤圏外エリアへ転宅せざるを得ない社員が、転宅先での最寄の支店へ継続勤務の希望を申告することができる制度です。

### ■ 退職者復職登録制度

家族の介護などやむを得ない理由で退職せざるを得ない社員が、退職後の状況変化で復職可能になった場合に、会社への復職を申告できる制度です。

## インターンシップの受け入れ

当社は、住宅事業の社会的意義、旭化成ホームズの事業や現場を通して、具体的な仕事への理解を深めていただくことを目的とし、インターンシップの受け入れを行っています。2014年度は2015年2月4日～9日の内5日間、全国の建築学科を中心とした大学生、大学院生合計34名の受け入れを実施しました。具体的には現場社員から直接仕事の説明を受ける、設計実習で設計の仕事を経験するほか、実際にヘーベルハウスを建てたお客様のお宅を訪問しお客様の生の声を伺っています。

このような体験を通じて、当社の仕事を肌で感じ取ってもらうことを期待しています。

実習内容	体験する内容
支店見学 (池袋・渋谷・武蔵野の3支店)	設計担当、工事担当の現場の仕事を知る、体験する。
設計実習	実際に「設計」の仕事を経験する。
住宅総合技術研究所 見学	住宅メーカーの研究開発現場での仕事を理解する。

参加者ほぼ全員から「非常に満足」のアンケート結果が寄せられました。

### アンケート結果と参加者の声(一部抜粋)

1.非常に満足	33	・設計に限らず様々な職種の業務内容を知ることができて良かった。
2.満足	1	・毎日濃い内容で学ぶことが多かった。(全てなくてはならないプログラムだったと思う。)
3.どちらともいえない	0	・普段見ることのできない場所を見学できて良かった。
4.多少不満	0	・自分の目標を想像以上に達成できた。
5.不満	0	



インターンシップの風景

## 社員の能力開発に向けた取り組み

当社グループは、「全員経営」を目指しており、社員一人ひとりが「自ら学び・考え・行動する」ことが必要と考えています。それらを実現するために、OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)に加えた各種研修を通じて、社員の「成長したい」という意思を支援する体制を整えています。

### ▶ 教育研修体系

当社グループでは、全社員を対象に、能力開発を計画的に実施していくための研修体系を策定しています。教育体系はマネジメント層を育成する「経営リーダー育成」と基礎能力、専門能力を向上させる「人財育成の2つの基礎育成」の2方向からなり、それぞれが階層ごとに教育を受ける仕組みになっています。それらの他に社員が自発的に学ぶことを支援する自己研鑽支援制度があります。

#### 人財育成体系概要



### ▶ 組織開発

社員と社員を結びコミュニケーション環境をさらに発展させ良好にすることを目的に、実習を通じた体験から学ぶ「体験学習」。真面目な話を気楽にするオフサイトミーティングの風景

トミーティングなどを展開しています。社員と社員が知り合い分かり合える機会の創出が、意思の疎通の円滑化を促進し、信頼をベースにした企業風土の醸成を行う一助となっています。

\*2 ALIS(アリス)教育:営業、設計の1年次～課長までを対象として行われている知識教育。



オフサイトミーティングの風景

旭化成ホームズ株式会社  
代表取締役社長 池田 英輔 様

平成27年7月14日



## 「環境・社会報告書2015」に対する第三者意見報告書

### 1. レビューの概要と観点

貴社の「環境・社会報告書2015」に記載された環境活動、社会活動について、特集として特記された内容並びに策定された目標と実績の自己評価を中心に、以下のレビューの観点に基づき、目標の達成度を客観的に検討してコメントを作成した。なお、意見報告書の取りまとめに際し、資源循環を考慮した建築生産システム等について、学識者として長年研究されてきた角田誠氏(首都大学東京教授)に建築・環境技術面からのアドバイスを依頼した。

- レビューの観点
- ①住宅の長寿命化(高強度・高耐久性、暮らしの変化への対応、良好なストック)
  - ②住宅のライフサイクルにおける環境負荷の低減(省エネ、創エネ、省資源、リデュース、リユース、リサイクル)
  - ③住まい手や社会とのコミュニケーション(自然共生、環境教育、価値共創、社会貢献)

### 2. 意見(レビュー結果)

#### ■ 旭化成ホームズの環境・社会への取り組み

昨今、少子高齢化、家族構成の多様化等社会構造や人びとの住まい方が変化する中で、安定した、安心できる住まいが求められている。貴社は創業以来、住まい方も含めて都市で長く暮らせる住宅を提案されてきた。将来を見通して「ロングライフ住宅の実現」を宣言され、丈夫で長持ちする住まいを作るという考えを明確に示すとともに、住宅のネット・ゼロ・エネルギー化推進など、環境に配慮した住まいづくりに貢献されてきた。2015年度は二世帯住宅誕生から40周年でもあり、「昨日まで世界になかったものを。」をスローガンに掲げ、これまでの事業活動を振り返りつつ、11年目の報告書を作成されている。

2015年度より、3つの環境方針のもとに環境目標・指標を策定され、その積み重ねが、2020年度を目途とする中期目標に繋がる仕組みとなっている。経営会議において、低炭素関連の中期目標、最終的には環境目標の達成状況も確認することとしており、RC活動の盤石な体制をとられたことを高く評価する。

#### ■ 特集

特集の「都市に長く住まう。」では、1972年の創業以来43年間追求されてきた都市に住む人々にとっての住まいについて、「時代とともに進化している二世帯住宅」、「付加価値型賃貸ロングライフコミュニティ賃貸住宅」、「住宅とくらしの両面を配慮した質の高いリフォーム」等の観点からまとめられており、貴社とグループ会社が、これまで一丸となって取り組まれた「ロングライフ住宅」への自信がうかがえ、住宅の長寿命化の観点から高く評価できる内容であった。

#### ■ 環境・社会活動 目標と実績

##### (1) 環境に関する取り組み

- ①低炭素社会へ向けた活動:環境負荷低減の取り組みとして、貴社が、太陽光発電や燃料電池等の創エネルギー設備の拡大によるLCA・CO<sub>2</sub>削減への努力と目標を上回る成果を上げられたことを高く評価する。また、次の取り組みも同様の観点から優れた実績として評価できる。
  - ・住環境シミュレーションシステム「ARIOS(アリオス)」の高機能化(風のシミュレーション機能)による快適な住環境計画の実現に向けた取り組み
  - ・国土交通省のエコシップ優良事業者認定を受けられた船舶によるモーダルシフトの推進を通じた輸送活動時のCO<sub>2</sub>削減のための取り組み
- ②循環型社会へ向けた活動:次の取り組みについても環境負荷低減の観点から優れた実績として評価する。
  - ・2014年度の工場及び新築施工現場における産業廃棄物発生量削減の取り組み(総量で10%減、原単位で15%減)
  - ・グループ企業や関連企業における工場のゼロエミッション、廃材の再資源化等の取り組み
  - ・4年間続いている「AHS1(アースワン)プロジェクト」において、640kg/棟の削減成果を上げるなどの「適量搬入」、「徹底分別」の取り組み
- ③自然共生社会へ向けた活動:8年を経過して階層構造を持つ森に生長した「あさひのいのちの森」は、木材認証材利用推進の取り組み(2014年度は比率99%)とともに、住まい手や社会とのコミュニケーションの優れた取り組みとして評価でき、今後、その知見を活かし、自然と親しむ緑を重視した事業活動への展開に期待する。また、塗装乾燥パーナーの燃料変更により、キシレンについて8割以上削減するなどの実績は環境負荷低減の取り組みとして評価する。
- ④社会との価値共創へ向けた活動:「EcoゾウさんClub」や環境意識啓発としての「かんきょう一日学校」、くらしノベーション研究所の出張授業等、貴社の、住まいや社会に向けた継続した活動を住まい手や社会とのコミュニケーションの優れた取り組みとして評価する。また、富士市の住宅総合技術研究所に移築した「エネマネハウス」による先進技術の実証結果については、将来のゼロエネルギー化に繋がることを期待する。

##### (2) 社会に関する取り組み

「夜間ヘーベリアンセンター」、「オーナーサービス部材供給センター」の開設などお客様満足向上の取り組みを評価する。ロングライフ住宅品質管理システム、ロングライフ保証システムによるアフターサービスは、大手新聞社からも高く評価されており、こうした施工現場の品質管理の取り組みは、住まい手や社会とのコミュニケーションの取り組みとして大いに評価できる。

### 3. 今回の環境・社会報告書の総合評価と今後への期待

今回の環境・社会報告書2015は、レビューの3つの観点から鑑みても、各目標に対して着実な成果を上げており、今年度、未達成の目標に対しても達成に近づいたための方策を考慮している。また、達成率の高い目標に対しては次年度も引き続き目標をステップアップさせながら、取り組む姿勢が評価できる。次期の中期目標においては、LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度をこれまで以上に高める目標を掲げ、それに伴い各目標も意欲的なものとなっている。グループ全体での真摯な取り組みが、確実な成果に導かれることを期待する。

\*この意見報告書は、環境・社会報告書の記載情報の正確性に関する意見表明ではありません。

一般財団法人 日本建築センター  
理事長

松野 仁



首都大学東京教授

角田 誠

